

福島県文化財センター白河館

年報～令和6年度実績～

公益財団法人福島県文化振興財団

年報（令和6年度実績）の発刊によせて

「見て・触れて・考え・学ぶ体験型フィールドミュージアム」として2001(平成13)年7月にオープンした福島県文化財センター白河館（愛称「まほろん」）は、本年の7月で24年を経過いたしました。本書は、2024(令和6)年度の管理運営実績を総括するものです。

さて、2024(令和6)年度の企画展として、昨年度から会期を延長して開催した「戦後ふくしまの考古学2－高度経済成長期の発掘調査－」の他に、収蔵資料展「U-15の考古学－ふくしまの平安時代のはじまり－」、「この木、なんの木？前田遺跡！－縄文時代の植物利用－」、「復興祈念展－人びとのいとなみの継承－」前期展を開催しました。なかでも「復興祈念展(前期展)」では、東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故からの復興事業の一つとして、中間貯蔵施設建設に伴う双葉・大熊両町内の埋蔵文化財発掘調査の成果を公開するとともに、発掘調査によって分かってきた、新たなるさとの歴史を解説する展示としました。

また、2024(令和6)年度より5か年の指定管理業務(第5期)につきましても、引き続き我々公益財団法人福島県文化振興財団がその任に当たることになりました。「ふくしまの文化を未来につなぐ」、「ふくしまの文化を広く発信する」という使命のもと館の運営を行ってまいります。職員一同、これからも鋭意努力する所存ですので、皆様には、変わらぬ御指導を賜りますようお願い申し上げます。

令和7年10月

公益財団法人福島県文化振興財団
福島県文化財センター白河館
館長 石川 日出志

目 次

第1章 白河館の概要

1	白河館の業務	1
2	白河館の沿革	1
3	令和6年度の主な行事	2
4	災害等の影響	2

第2章 管理業務の実施状況及び利用状況

1	利用状況	3
1.	利用者数	3
2.	入館者数の内訳と傾向	3
2	維持管理に関する業務	5
1.	建築物・設備・環境衛生・ 外構等保守管理業務	5
2.	施設・設備等の修繕状況	5
3.	備品・物品管理業務	5
3	文化財の収蔵・保管に関する業務	6
1.	収蔵資料	6
2.	資料貸し出し	6
3.	写真掲載等承認	6
4.	資料閲覧	7
4	文化財の活用に関する業務	8
1.	常設展示	8
2.	企画展示	10
3.	講演会等	16
4.	体験学習・イベント	18
5	文化財に関する情報発信	22
1.	ホームページによる情報発信	22
2.	データベースによる情報提供	22
3.	S N S による情報発信	22
4.	まほろん通信の発行	22
6	文化財に関する研修及び技術支援	23
1.	概要	23
2.	研修実施状況	23
3.	技術支援	24
7	文化財の活用に関する調査研究	24
1.	文化財の調査	24
2.	体験学習等における試み	24
3.	文化財等に関する情報収集	24
4.	研究紀要	24

8 出土文化財の保存処理

1.	劣化防止等業務	24
2.	保存処理業務	25
3.	分類・データベース入力業務	25
9	その他	25
1.	ボランティア活動の支援	25
2.	実習生等の受け入れ	26
3.	年報の発行	26
4.	運営協議会の開催	26
5.	読み直すふくしまの歴史事業	27
6.	他機関との連携	27
7.	被災ミュージアム再興事業	28

第3章 令和6年度の組織と管理運営費

1	組織	29
2	管理運営費	29

第4章 白河館施設の概要

第5章 白河館の条例・規則

1	福島県文化財センター白河館条例	32
2	福島県文化財センター白河館条例 施行規則	32

白河館の利用案内



石川館長の常設展示解説会(ゴールデンウィーク特別体験)



バックヤードツアー（まほろん感謝デー）

第1章 白河館の概要

1 白河館の業務

福島県文化財センター白河館（愛称「まほろん」。以下「白河館」と表記する。）は、文化財等を保管・活用することによって県民の文化の振興に資するため福島県が設置した文化施設であり、平成13年7月に開館した。

白河館は、福島県教育委員会が発掘調査した遺跡で出土した遺物や記録写真、図面などの資料を収蔵・保管し、それを展示・体験学習等に活用すると共に、文化財を担当する市町村職員等を対象とする研修、文化財に関する情報発信等の役割を担っている。

福島県は、開館から平成17年度まで、財団法人福島県文化振興事業団に館の管理運営業務を委託していたが、平成18年度から指定管理者制度を導入し、管理運営業務を行う法人等を広く公募することにした。第1期（平成18年度から平成20年度まで）は財団法人福島県文化振興事業団が指定管理者に選定され、以降、第4期の現在に至るまで、同財団（平成26年4月に現名称に変更）が管理業務を担っている。

条例に定める館の業務は、以下のとおりである。

- 考古資料の保管及び展示、考古資料以外の文化財の展示並びに文化財に関する資料の保管及び展示に関すること。
- 文化財に関する講演会、講習会等の開催に関すること。
- 文化財等を活用した体験学習の実施に関すること。
- 文化財に関する情報の収集及び提供に関すること。
- 文化財に関する調査、研究を担当する市町村等の職員の研修に関すること。
- 考古資料の保管及び文化財の活用に関する専門的又は技術的な調査研究に関すること。
- 白河館の維持補修及び管理に関すること。
- 上記の他に、福島県教育委員会が別に定める業務。

なお、令和元年度からは、出土文化財の保存処理等に関する業務が追加されている。

白河館は貴重な文化財を様々な形で活用する施設であり、文化財の復元研究や体験学習活動を全国に先駆けて実施してきた。また、「遺跡から学ぶ自然と人間のかかわり」をメインテーマとして、“見て・触れて・考え・学ぶ”体験型ミュージアムを目指している。

2 白河館の沿革

平成6年度

福島県文化財保護審議会が「福島県文化財センター（仮称）整備基本構想報告書」を答申
平成8年度

「福島県文化財センター白河館（仮称）基本計画」策定

平成11年11月

施設愛称を公募し「まほろん」に決定

平成13年3月27日

福島県文化財センター白河館条例及び施行規則制定

平成13年4月1日

福島県が財団法人福島県文化振興事業団に管理運営を委託

平成13年7月15日

福島県文化財センター白河館開館記念式典

平成16年2月28日 入館者10万人到達

平成18年4月1日

「福島県文化財センター白河館指定管理者」として、福島県が財団法人福島県文化振興事業団に3か年の管理運営を委託（平成21年3月31日まで）

平成19年4月14日 入館者20万人到達

平成21年4月1日

「福島県文化財センター白河館指定管理者」として、福島県が財団法人福島県文化振興事業団に5か年の管理運営を委託（平成26年3月31日まで）

平成22年4月25日 入館者30万人到達

平成22年9月10日

開館以来館長を務めた藤本強館長が急逝。平成23年3月31日まで、館長職を福島県文化振興事業団富田孝志理事長が兼務

平成23年3月11日
東日本大震災発生。館内に被災箇所あり。4月30日まで臨時休館

平成23年4月1日 菊池徹夫新館長就任

平成23年5月1日
震災被害により使用できなくなった一般収蔵庫及び野外展示施設を除き、再開館

平成24年4月15日
野外展示施設修繕完了、使用を再開

平成24年5月3日
一般収蔵庫修繕完了、使用を再開

平成24年5月19日
開館10周年記念事業を実施

平成26年2月8日 入館者40万人到達

平成26年4月1日
「福島県文化財センター白河館指定管理者」として、福島県が公益財団法人福島県文化振興財団に5か年の管理運営を委託（平成31年3月31日まで）

平成27年12月5日 入館者45万人到達

平成28年9月25日
開館15周年記念事業を実施

平成29年9月2日 入館者50万人到達

平成31年4月1日
「福島県文化財センター白河館指定管理者」として、福島県が公益財団法人福島県文化振興財団に5か年の管理運営を委託（令和6年3月31日まで）

令和3年10月16日
開館20周年記念式典及び記念企画展開幕式を実施

令和4年6月27日 菊池徹夫館長退任

令和4年6月28日 石川日出志新館長就任

令和5年5月20日 入館者60万人到達

令和6年4月1日
「福島県文化財センター白河館指定管理者」として、福島県が公益財団法人福島県文化振興財団に5か年の管理運営を委託（令和11年3月31日まで）

3 令和6年度の主な行事

令和6年4月1日～5月6日
「戦後ふくしまの考古学2－高度経済成長期

の発掘調査－」

令和6年6月15日～9月29日
「U-15の考古学－ふくしまの平安時代のはじまり－」

令和6年10月26日～12月15日
「この木、なんの木？前田遺跡！－縄文時代の植物利用－」

令和6年11月2日～4日
まほろん感謝デー

令和7年1月25日～3月16日
「復興祈念展－人びとのいとなみの継承－」



「この木、なんの木？前田遺跡！」

4 災害等の影響

福島県教育委員会は、東日本大震災により被災した博物館の収蔵資料を保管するための文化財仮保管施設を当館の敷地内に設置している。本施設には、福島県被災文化財等救援本部により救出された、大熊町民俗伝承館・双葉町歴史民俗資料館の収蔵資料が保管されている。

第2章 管理業務の実施状況及び利用状況

1 利用状況

1. 利用者数

令和6年度の総利用者数は、31,590名（令和5年度42,371名）で前年度に比べ10,781名の減であった。入館者数は、17,442名（令和5年度14,383名）、館外利用者数は14,148名（令和5年度27,988名）であった。

平成13年の開館以来の入館者数は令和6年度末で630,637名となった。

年間入館者数については、前年度から3,059名の増であった。大型連休、夏季休業のある5月、8月に加え、イベントを開催した11月において大きく増加した。

教育施設や生涯学習施設を対象とする「おでかけまほろん」、他機関と連携して展示を行うまほろん移動展、館外で開催した講演会や研修会等を含めた館外利用者の総数は、前年度から13,840名の減となった。移動展が福島県立図書館の1か所のみとなったことが主要因である。

2. 入館者数の内訳と傾向

（1）地域別利用状況

居住地域別の入館者数の集計は、県内からの入館者が13,555名（令和5年度11,609名）で入館者全体の77.7%、県外からの入館者が

3,887名（令和5年度2,774名）で入館者全体の22.3%となり、全体的に増加を示しつつ、県外からの来館者の比率が上がっている。

（2）年齢別利用状況

児童、小・中学生、高校生が6,193名（令和5年度4,588名）で、入館者全体の35.5%（令和5年度31.9%）、一般の入館者数は11,249名（令和5年度9,795名）で、入館者全体の64.5%（令和5年度68.1%）となった。小中学生層が前年に比して1000人を超す増加を見せた。

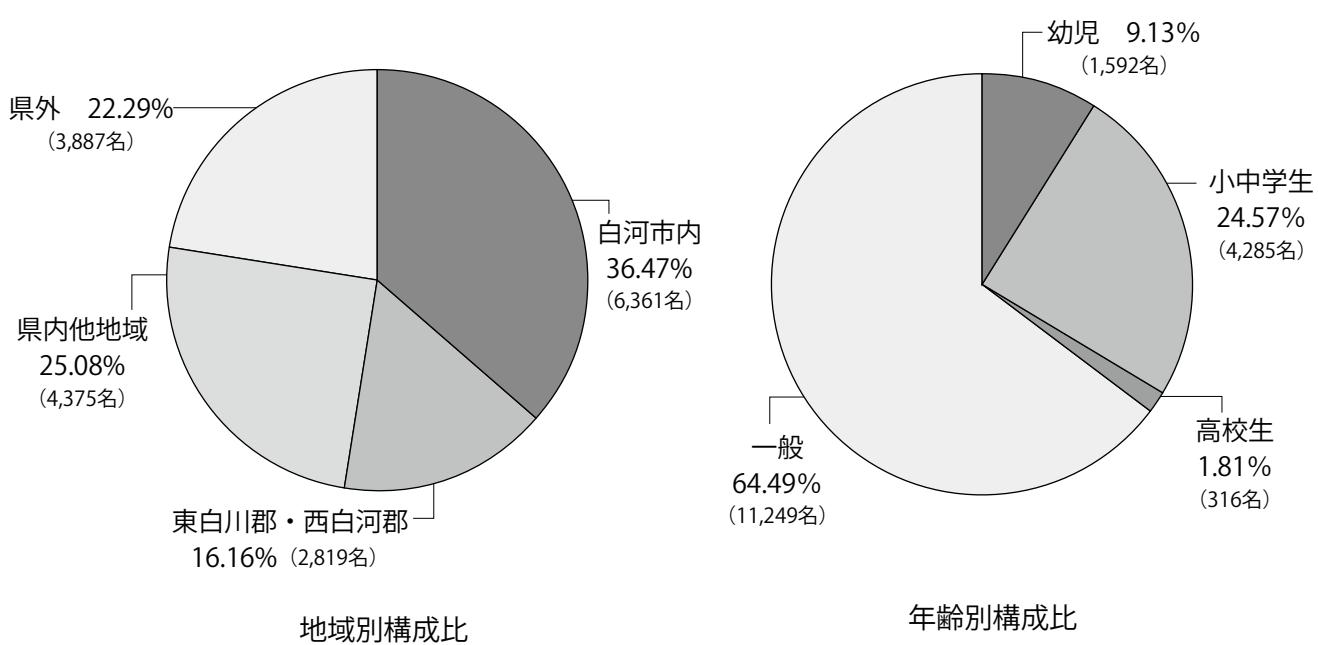
（3）団体利用状況

入館した団体数は98団体（令和5年度114団体）、団体による入館者数は2,634名（令和5年度2,310名）であった。前年度からは団体数は16件の減、入館者数は324名の増加となり、多人数の団体が増加したことを示す結果となった。全入館者数における団体入館者の割合は、15.1%（令和5年度16.1%）であった。

学校関係の利用は53校1,599名で、前年度の60校1,493名から入館者数のみ増加した。ただし、このうち小学校の利用は、24校940名にとどまり、前年度から件数、入館者数ともに減となっている。

月別入館者数

令和6年度	年齢別属性		地域別属性		入館者	館外利用者	総利用者数 (合計)	令和5年度	
	幼小中高	一般	県内	県外				入館者	館外利用者
4月	655	895	1,148	402	1,550	0	1,550	980	0
5月	785	1,392	1,692	485	2,177	178	2,355	1,292	40
6月	790	832	1,397	225	1,622	11,572	13,194	1,377	13,733
7月	711	944	1,285	370	1,655	1,117	2,772	1,559	13,107
8月	818	1,254	1,397	675	2,072	233	2,305	1,667	484
9月	441	915	920	436	1,356	313	1,669	1,242	84
10月	214	849	832	231	1,063	354	1,417	1,202	249
11月	941	1,604	2,178	367	2,545	66	2,611	1,761	285
12月	161	547	556	152	708	73	781	692	6
1月	122	551	555	118	673	0	673	552	0
2月	203	719	684	238	922	242	1,164	1,042	0
3月	352	747	911	188	1,099	0	1,099	1,017	0
合計	6,193名	11,249名	13,555名	3,887名	17,442名	14,148名	31,590名	14,383名	27,988名



団体利用者一覧

団体		令和6年度												合計	
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
学校関係	幼稚園・保育園	園数	3	2	4	1		1	1	3	2	2	1	22	23
		来館者数	27	15	78	6		9	9	39	19	22	20	9	253
	小学校	学校数	1	1	11	7		2	1					1	24
		来館者数	14	24	480	233		90	9					90	940
	中学校	学校数	1					1						2	1
		来館者数	22					72						94	43
	高等学校	学校数	1	1										2	2
		来館者数	166	22										188	51
	支援学校	学校数		1										1	1
		来館者数		17										17	14
生涯学習関係	大学	学校数												0	0
		来館者数												0	0
	幼小中高PTA(保護者のみ)	学校数												0	0
		来館者数												0	0
	幼小中高PTA(親子レク等)	学校数			1					1				2	2
		来館者数			52				55					107	58
	研究会	会数												0	3
		来館者数												0	27
	子ども会	会数				1			1					2	2
		来館者数				82			20					102	32
社会福祉関係	公民館等	館数	1		1	1	1	2	1					7	11
		来館者数	26		10	25	29	65	31					186	196
	福祉施設・デイケアサービス	団体数			2	2	2	3	4	3			2	18	20
		来館者数			27	27	24	55	58	57			51	299	255
	資料館等	館数												0	0
		来館者数												0	0
	歴史研究	団体数						1	1					2	1
		来館者数						25	23					48	20
	県・市町村・教委・審議会等	団体数			1									1	3
		来館者数			32									32	56
その他	その他	団体数	2	2		4	2	2			1	1	1	15	14
		来館者数	35	53		93	120	29			8	16	14	368	231
合計	団体数	8	8	19	16	5	11	10	8	3	3	5	2	98	114
	団体来館者数	264	157	669	451	169	309	184	182	27	38	85	99	2,634	2,310
	総来館者数	1,550	2,177	1,622	1,655	2,072	1,356	1,063	2,545	708	673	922	1,099	17,442	14,383
	団体利用者の割合(%)	17.03%	7.21%	41.25%	27.25%	8.16%	22.79%	17.31%	7.15%	3.81%	5.65%	9.22%	9.01%	15.10%	16.06%

2 維持管理に関する業務

1. 建築物・設備・環境衛生・外構等保守管理業務

「福島県文化財センター白河館の維持管理に係る業務」の仕様書に則し、下記のとおり実施した。

- (1) 建築基準法第12条定期点検業務
(株) 兼子組
- (2) 空調設備点検業務
常光サービス(株)
- (3) 消防用設備等保守点検業務
大槻電気通信(株)
- (4) 電話設備等点検業務
(株) ユニテック
- (5) 簡易型昇降機及びリフター保守点検業務
常光サービス(株)
- (6) 自動ドア保全業務
常光サービス(株)
- (7) 自家用電気工作物保安管理業務
(一財) 東北電気保安協会福島事業本部
- (8) 展示用及び講堂用A V機器保守点検管理業務
(株) オリエンタル・エージェンシー
- (9) 植栽管理業務
(有) 永野造園
- (10) 清掃業務
(株) タイセークリーン
- (11) 除雪業務
(有) 猪越土木
- (12) 警備業務
A L S O K 福島(株)

2. 施設・設備等の修繕状況

- (1) 令和6年4月8日
事務室等非常用照明器具交換修繕
- (2) 令和6年4月8日
体験活動室等ガス漏れ警報器交換修繕
- (3) 令和6年4月8日
女子トイレウォシュレット交換修繕
- (4) 令和6年6月19日
特別展示室照明リモコンリレー交換修繕

- (5) 令和6年9月27日
特別収蔵庫フィルタユニットVベルト交換修繕
- (6) 令和6年10月1日
閲覧・相談コーナー室内機ドレンアップキット交換修繕
- (7) 令和6年10月2日
非常用発電機バッテリー交換修繕
- (8) 令和6年10月4日
空調自動制御設備用中央監視装置N A Eバッテリー交換修繕
- (9) 令和6年10月4日
事務室等ルームヒューミディスタット交換修繕
- (10) 令和6年10月26日
館長室空調機修繕
- (11) 令和6年11月27日
一般収蔵庫高天井用照明交換修繕
- (12) 令和6年12月20日
フラッグポール修繕
- (13) 令和6年12月20日
日課放送装置交換修繕
- (14) 令和7年1月17日
特別収蔵庫レタンファンVベルト交換修繕
- (15) 令和7年3月26日
公用車右ブレーキランプバルブ交換修繕
- (16) 令和7年3月27日
外気湿度センサー素子交換修繕
- (17) 令和7年3月28日
特別展示室非常灯バッテリー交換修繕

3. 備品・物品管理業務

基本協定書別表「管理財産一覧」について適正に管理した。

3 文化財の収蔵・保管に関する業務

1. 収蔵資料

	遺 物	写 真	図 面	地図・カード類	無形の文化財関連	合計(箱)
一般収蔵庫	53,035	3,386	1,253	540	10	58,224
特別収蔵庫	766					766
合計	53,801	3,386	1,253	540	10	58,990

※1 一般収蔵庫の収容能力は最大66,000箱

※2 特別収蔵庫には保存処理済みの木質遺物・金属質遺物を収納

2. 資料貸し出し

(1) 遺 物 (16件)

貸出期間	貸 出 先	資 料 名	数量(点)
令6.4.1～令7.3.31	原町火力発電所(常設展示)	南相馬市大船迫A遺跡出土砂鉄ほか	21
令6.4.1～令7.3.31	須賀川市立博物館(常設展示)	須賀川市梅田横穴古墳出土須恵器	1
令6.4.1～令7.3.31	白河市歴史民俗資料館(常設展示)	白河市一里段A遺跡出土石器ほか	5
令6.4.1～令7.3.31	福島県立博物館(常設展示・継続)	桑折町平林遺跡出土石器ほか	1,156
令6.4.1～令7.3.31	とみおかアーカイブ・ミュージアム(常設展示)	富岡町前山A遺跡出土繩文土器ほか	10
令6.6.6～令6.12.12	楢葉町歴史資料館(企画展)	楢葉町小塙城跡出土陶磁器ほか	21
令6.5.24～令6.9.30	福島県立博物館(企画展)	猪苗代町・磐梯町法正尻遺跡出土繩文土器ほか	315
令6.8.1～令6.12.6	松戸市博物館(企画展)	国見町川原遺跡出土土器ほか	24
令6.8.8～令6.12.4	南相馬市博物館(企画展)	南相馬市宮前遺跡出土土器ほか	57
令6.10.1～令6.12.27	東北歴史博物館(特別展)	新地町向田A遺跡出土鋳型ほか	8
令6.8.20～令6.12.6	じょーもびあ宮畑(企画展)	須賀川市又兵衛田A遺跡出土土偶ほか	11
令6.9.7～令6.12.18	豊田市博物館(企画展)	猪苗代町・磐梯町法正尻遺跡出土繩文土器	6
令6.9.13～令7.7.31	西会津学びあいランド・ふるさと未来ランド(企画展)	西会津町六郎次遺跡出土土器ほか	7
令6.9.23～令7.3.31	石川町歴史民俗資料館(常設展示・継続)	白河市谷地前C遺跡出土遺物ほか	33
令6.9.26～令7.3.31	とみおかアーカイブ・ミュージアム(企画展)	富岡町日南郷遺跡出土土器ほか	61
令7.3.5～令7.6.12	仙台市縄文の森広場(企画展)	本宮市高木遺跡出土縄文土器ほか	14
		合 計	1,750

(2) 模型及びレプリカ (2件)

貸出期間	貸 出 先	資 料 名	数量(点)
令6.4.1～令7.3.31	福島県立博物館(常設展示・継続分)	獸脚付容器(復元品)ほか	19
令6.10.8～令7.3.31	白河市歴史民俗資料館(常設展示)	天王山遺跡M号地遺物出土状況復元模型	1
		合 計	20

3. 写真掲載等承認 (40件)

承認日	申請者(掲載刊行物等)	資 料 名	数量(点)
6.4.30	株式会社敬文舎 安斎正人『縄文を訪ねる』	法正尻遺跡遺景ほか	4
6.4.30	(株)NHKエンタープライズ東北支社 東北ここから「古墳スペシャル」NHK+配信	桜町遺跡出土遺物ほか	7
6.5.13	吉田かよこ氏『郵便屋さんからの手紙』	荒小路遺跡出土土器ほか	8
6.6.11	楢葉町歴史資料館長 特別企画展「戦国時代の楢葉町」パンフレット	小塙城跡出土遺物ほか	22
6.6.11	大安場史跡公園 企画展解説資料『正直古墳群の全て』	正直A遺跡出土遺物ほか	6
6.6.20	(株)山川出版社『日本史のなかの宮城県』	磐(復元)	1
6.7.2	著作権に係る教育NPO 國學院大學栃木県短期大學 令和6年度入学試験問題	法正尻遺跡 土器	2
6.7.2	福島県立博物館 企画展「縄文DX」図録・展示パネル	法正尻遺跡全景ほか	39
6.7.9	「月刊社会教育」編集委員会『月刊社会教育』2024年9月号	福島県文化財センター白河館外観ほか	5
6.7.18	水戸市教育委員会 企画展「黒鋼～古代水戸の鉄生産～」パネル・チラシ	豊型炉操業推定図ほか	11
6.7.18	月刊こみっと『月刊こみっと』8月号	野外展示「奈良時代の米倉」	25
6.7.24	南相馬市博物館長 企画展『縄文みなみそうま』展示図録	宮前遺跡出土土器ほか	1
6.7.25	東北歴史博物館長 特別展「多賀城1300年」展示図録	向田A遺跡出土鋳型ほか	62
6.7.25	奥村印刷株式会社「日本伝統文化検定」公式テキスト・検定問題・受験対策資料・公式webサイト・公式SNS・メディア媒体・Yotube	一ノ堰B遺跡 土器	2

6.7.26	松戸市立博物館 企画展図録『異形土器 縄文時代の不思議なうつわ』	川原遺跡出土土器ほか	4
6.8.19	宮崎県立西都原考古博物館 特別展 展示会II『土偶の美と縄文の美～東北日本と北九州～』図録・展示パネル	柴原A遺跡出土土偶	7
6.8.20	豊田市博物館 企画展図録『旅するジョウモンさん-5千年前の落とし物』	法正尻遺跡出土遺物ほか	3
6.9.11	多賀城市教育委員会 令和6年度企画展「古代都市多賀城」リーフレット	古代の兵士(復元模型)	1
6.9.21	豊田市博物館 企画展図録『旅するジョウモンさん-5千年前の落とし物』	白河館 外観写真	1
6.10.2	いわき市暮らしの伝承郷 令和6年度第2回企画展「馬とくらし」	馬模型	25
6.10.14	とみおかアーカイブ・ミュージアム 企画展「発掘された双葉郡」写真パネル	南代遺跡調査区全景ほか	1
6.10.17	本間宏氏 講演会「ふくしま縄文ミステリー」配布資料	荒小路遺跡出土土器ほか	27
6.10.17	花巻市博物館 特別展「縄文ワールド-写真家・小川忠博の世界-」の展示及び広報	柴原A遺跡出土土偶	1
6.11.13	広野町教育委員会教育長(仮題)『発見!ひろの町-遺跡編-』	上田郷VI遺跡航空写真ほか	9
6.11.14	河北新報社文化部長 古代史特集記事	鳥打沢A遺跡2号製鉄炉跡ほか	4
6.11.21	株式会社 同成社『古代国家と東北境界領域の考古学』	山岸硝庫跡出土遺物ほか	8
6.12.5	児玉大成氏『彩色土器の考古学的研究』	上ノ台A遺跡出土の異形土器	2
6.12.5	南相馬市教育委員会事務局文化財課 南相馬市博物館ホームページ「ちょこっとミュージアム」	高木遺跡出土土偶ほか	7
6.12.17	明治図書出版株式会社『よくわかる国語の学習』	弓を射る兵士像	1
6.12.17	遠藤喜代子氏『ボプラディアプラス 日本の歴史』第4巻	古墳時代の食事	1
7.1.28	郡山市歴史情報博物館 常設展示パネル	荒小路遺跡出土土偶ほか	2
7.2.12	郡山市歴史情報博物館 常設展示パネル	徳定A遺跡出土土器	1
7.2.20	大安塙史跡公園 郡山教育委員会『正直古墳群 総括報告書』	正直B遺跡出土土師器・石製模造品	2
7.3.4	仙台市縄文の森広場 コーナー展示「東北の縄文遺跡 福島県本宮市・高木遺跡」	高木遺跡遺構写真ほか	12
7.3.17	帝京大学博物館企画展「ほねほねワンダーランド～骨の不思議を探る～」パンフレット	刀子復元品	1
7.3.17	武政一夫氏 考古学同好会機関紙『太古』	山中遺跡出土舟形土製品	1
7.3.17	じょーもびあ宮畠「展示の見どころガイド」	荒小路遺跡出土土偶ほか	2
7.3.17	株式会社晶文社『世界の土偶を読む』	荒小路遺跡出土土偶	1
7.3.21	株式会社かみゆ『歴史人』令和7年5月号	荒小路遺跡出土土偶	1
7.3.21	世界文化社『増補改訂版 はじめての土偶』	荒小路遺跡出土土偶	1
		合計	321

4. 資料閲覧

(1) 遺物(20件)

閲覧日	閲覧者(閲覧目的)	資料名	数量(点)
令6.4.11	楢葉町教育委員会(企画展事前調査)	楢葉町小塙城跡出土金属製品	9
令6.4.23	東北大学(調査研究)	郡山市荒小路遺跡出土土製品	5
令6.5.23	東北歴史博物館(企画展事前調査)	相馬市向田A遺跡出土鋳型ほか	8
令6.5.28	松戸市立博物館(企画展事前調査)	国見町川原遺跡出土縄文土器ほか	50
令6.6.18	一関市教育委員会事務局文化財課(調査研究)	伊達市荒屋敷遺跡出土馨ほか	2
令6.7.5	公益財団法人福島市振興公社(企画展事前調査)	須賀川市又兵衛田A遺跡出土土偶ほか	11
令6.7.14	県外研究者(調査研究)	広野町上田郷VI遺跡出土土偶ほか	240
令6.7.26	いわき市暮らしの伝承郷(企画展事前調査)	馬模型	1
令6.7.31	郡山市文化・スポーツ部文化振興課(レプリカ製作のための調査)	郡山市徳定遺跡出土顔面付土器ほか	7
令6.8.7	県外研究者(調査研究)	白河市一里段A遺跡出土石器	109
令6.8.15	県外研究者(調査研究)	弩復元品	1
令6.8.17	県外研究者(調査研究)	小野町西田H遺跡出土縄文土器ほか	36
令6.9.7	富岡町教育委員会(企画展事前調査)	楢葉町南代遺跡出土土器ほか	827
令6.9.21	県内研究者(調査研究)	二本松市塩沢上原A遺跡出土土製品	1
令6.10.17	県外研究者(調査研究)	屋敷遺跡出土土器	158
令6.10.22	国見町郷土史研究会(団体見学)	国見町川原遺跡出土縄文土器	56
令6.12.18	新潟県埋蔵文化財調査事業団(報告書作成のための調査)	越田和遺跡出土土器ほか	40
令7.1.16	仙台市縄文の森広場(企画展事前調査)	高木遺跡出土土器ほか	19
令7.2.13	白石市教育委員会(報告書作成のための調査)	善光寺遺跡出土土器ほか	286
令7.2.26	東北芸術工科大学(調査研究)	一ノ堰B遺跡出土弥生土器ほか	399
		合計	2,265

4 文化財の活用に関する業務

1. 常設展示

(1) 構成

1) プロムナードギャラリー

- ①「まほろんのイッピン」
- ②「探してみよう福島の文化財」
- ③「まほろん周辺の文化財」（パネル展示）

2) 常設展示室

- ①「めぐみの森」

- ②「暮らしのうつりかわり」

〈昭和40年代〉 〈江戸時代〉 〈生と死〉

〈鎌倉・室町時代〉 〈奈良・平安時代〉

〈古墳時代〉 〈弥生時代〉 〈縄文時代〉

〈旧石器時代〉

- ③「暮らしをささえた道具たち」

サブコーナー 〈まほろんビデオBOX〉

- ④「遺跡を掘る」

- ⑤「展示コーナーA」（旧みんなの研究ひろば）

- ⑥「クイズ福島歴史発見」

- ⑦「のぞいてみよう福島の遺産」

- ⑧「展示コーナーB」（旧話題の遺跡）

- ⑨「展示コーナーC」（旧しらかわ歴史名場面）

- ⑩「国指定重要文化財 法正尻遺跡」

- ⑪映像展示

※⑤⑧⑨は、コーナー名称にとらわれず、フレキシブルに展示スペースを活用するため名称を変更した。

(2) 展示替え

令和6年度の展示替えは、別表一覧のとおりである。展示計画を基に、企画展事業や他の事業との関連をもった内容とした。

1) 学芸員がおすすめする収蔵品を「まほろんのイッピン」として、前年度からの継続も含めて、計5回の展示を行った。

2) 展示コーナーA（旧みんなの研究ひろば）

令和6年度は前年度からの継続及びコーナー間の移動も含めて、計8回の展示を行った。

◆白川結城氏の居城・白川城の全貌を見る

白河市に所在する国指定史跡「白川城跡」について、当館ボランティアが自らの研究成果を反映させ製作したジオラマとともに紹介した。

◆郡山市徳定A・B遺跡展

新収蔵資料の中から郡山市徳定A・B遺跡の最新の調査成果を紹介した。

◆白河高校震災復興白河ゼミ令和5年度活動報告

東日本大震災で崩落した国指定史跡「小峰城跡」の石垣が復旧するまでの過程などをまとめた、福島県立白河高等学校総合探求委員会によるポスター発表を展示了。

◆第一学院高等学校郡山キャンパス 歴史探求部卒業研究発表

郡山に所在する高校の部活動において、卒業に併せて行われた有志による研究成果発表の内容を展示了。

3) 展示コーナーB（旧話題の遺跡）

令和6年度は、前年度からの継続も含めて計7回の展示を行った。

◆X線CTで調べたまほろんの土偶たち

調査研究事業の一環で実施した、当館収蔵資料である土偶のX線CTによる透過撮影画像から新たに得られた知見について、実物資料とともに紹介し、併せて透過画像の動画を映像展示コーナーで上映した。

◆実技講座「白河だるまづくり」作品展

実技講座で製作した「白河だるま」について、白河市で隔年開催される福島ビエンナーレに出展するとともに、常設展示室でも展示了。

◆ふくしまのおひなさま

2~3月に体験活動室で実施した、いつでもできる体験学習「ふくしまのおひなさまをつくりよう」の参考にした、大沼郡三島町・金山町に残る雛流し行事について紹介した。映像展示コーナーにおいては、雛流し行事の記録映像の上映を併せて行った。

◆令和6年度まほろん実技講座「縄文土器をつくりよう」作品展

1~3月に実施した実技講座の作品について、手本とした実物資料や参加者が記した土器観察シートなどとともに展示了。

4) 「展示コーナーC」（旧しらかわ歴史名場面）

令和6年度は、前年度からの継続も含めて4回の展示を行った。

◆福島市孫六橋遺跡出土の弥生土器

展示替え一覧

コーナー	タイトル	開催期間	所蔵者	備考
まほろんのイッピン	『深鉢形土器』法正尻遺跡（猪苗代町・磐梯町）	令 6.2.28～令 6.4.23	福島県教育委員会	令和5年度からの継続
	白河のイッピン『白河だるま（佐川だるま製造所 製作）』	令 6.4.26～令 6.7.2	佐川だるま製造所	
	『土でできた縄文時代の楽器』田子平遺跡（浪江町）	令 6.7.3～令 6.11.7	福島県教育委員会	
	『縄文部と無文部のコントラストで装飾された土器』日向南遺跡（飯館村）・田子平遺跡（浪江町）	令 6.11.8～令 7.1.22	福島県教育委員会	
	『炉に埋められた土器』高木遺跡（本宮市）	令 7.1.23～	福島県教育委員会	
	桑名邸遺跡（天栄村）381号土坑出土 深鉢形土器	令 5.7.21～令 6.4.26	福島県教育委員会	令和5年度からの継続
展示コーナーA (旧みんなの研究ひろば)	まほろん収蔵の天王山式土器 (「会津地方弥生時代後期の土器と関連遺物」)	令 6.4.1～令 6.10.5	福島県教育委員会	令和5年度からの継続
	桜町遺跡の弥生土器	令 5.7.1～令 6.10.10	福島県教育委員会	令和5年度からの継続
	森塾生（第23期）の活動（パネル展示）	令 6.2.15～令 7.2.19		令和5年度からの継続
	森塾生（第24期）の活動（パネル展示）	令 7.2.20～		
	白川結城氏の居城・白川城の全貌を見る	令 6.10.6～令 7.1.28		
	郡山市徳定A・B遺跡展	令 6.10.11～	福島県教育委員会	
	白河高校 震災復興白河ゼミ 令和5年度 活動報告	令 7.1.29～令 7.3.28	福島県立白河高等学校	
	第一学院高等学校 郡山キャンパス 歴史探求部 卒業研究発表	令 7.3.28～	第一学院高等学校 郡山キャンパス	
	ふくしまの旧石器時代遺跡	令 6.2.9～	福島県教育委員会	令和5年度からの継続
展示コーナーB (旧話題の遺跡)	X線CTで調べたまほろんの土偶たち	令 6.4.19～令 6.8.21	福島県教育委員会	
	U-15 実技講座「土器づくり」紹介	令 6.9.5～令 6.10.8		
	実技講座「白河だるまづくり」作品展	令 6.10.8～令 11.14	講座参加者作品	
	白河高校 震災復興白河ゼミ 令和5年度 活動報告	令 6.10.31～令 7.1.28	福島県立白河高等学校	
	ふくしまのおひなさま	令 7.1.29～令 7.3.18		
	令和6年度まほろん実技講座 縄文土器をつくろう作品展	令 7.3.19～	講座参加者作品 福島県教育委員会	
展示コーナーC (旧しらかわ歴史名場面)	令和5年度博物館実習生展示 「新収蔵資料紹介 浪江町鹿屋敷遺跡・赤坂D遺跡」	令 5.9.2～令 6.4.10	福島県教育委員会	令和5年度からの継続
	福島市孫六橋遺跡出土の弥生土器	令 6.4.11～令 6.9.10	福島県教育委員会	
	令和6年度博物館実習生展示「南相馬市 谷地中遺跡」	令 6.9.15～令 7.3.25	福島県教育委員会	
	浪江町赤坂D遺跡の軒丸瓦	令 7.3.26～	福島県教育委員会	
国指定重要文化財 公開	磐梯町・猪苗代町法正尻遺跡縄文土器	令 6.4.1～令 6.5.31	福島県教育委員会	
	磐梯町・猪苗代町法正尻遺跡三脚石器	令 6.6.1～令 6.7.31	福島県教育委員会	
	磐梯町・猪苗代町法正尻遺跡縄文土器	令 6.8.1～令 6.9.30	福島県教育委員会	国指定重要文化財
	磐梯町・猪苗代町法正尻遺跡縄文土器	令 6.10.1～令 6.11.30	福島県教育委員会	
	磐梯町・猪苗代町法正尻遺跡縄文土器	令 6.12.1～令 7.1.31	福島県教育委員会	国指定重要文化財
	磐梯町・猪苗代町法正尻遺跡縄文土器	令 7.2.1～令 7.3.31	福島県教育委員会	国指定重要文化財

企画展「戦後ふくしまの考古学2」の関連展示として、東北新幹線建設に伴って発掘調査が行われた福島市孫六橋遺跡出土の弥生土器を、発掘調査報告書未掲載の資料も含め紹介した。
◆令和6年度博物館実習生展示「南相馬市 谷地中遺跡」

当館で実施した博物館実習における展示実習として行った。南相馬市谷地中遺跡から見つかった古墳時代の集落跡と古代の製鉄跡を紹介する内容とした。

◆浪江町赤坂D遺跡の軒丸瓦

企画展「復興祈念展」に関連して、浪江町赤坂D遺跡出土の瓦を展示するとともに、製作技法等について解説した。

5) 国指定重要文化財の公開

磐梯町・猪苗代町に所在する法正尻遺跡から出土した遺物のうち、国指定重要文化財の縄文土器などを選び、計6回の展示を行った。

6) 映像展示

企画展や体験活動室で実施している「いつでもできる体験学習」に関連付けた映像の上映を行った。

(3) 展示資料のメンテナンス等

常設・野外展示資料及び施設の状態について、職員が定期的に点検を実施し、軽微な修繕は展示担当の学芸員が行った。常設、野外展示の各施設は、経年劣化による修繕を要する箇所がいくつも認められ、大がかりな工事が見込まれるものが多いことから、次年度以降、優先順位を定めて県に修繕を要望する。

なお、12月に展示担当学芸員を中心に常設、野外展示施設の各所の清掃を行った。特に、毎週、炉やカマドで火を焚いている復元住居については、念入りな煤払いを行い、洗浄が可能な道具類を水洗いした。

2. 企画展示

(1) 「戦後ふくしまの考古学2—高度経済成長期の発掘調査—」後期展

会期：令和6年4月2日(火)～5月6日(月)

(開催日数32日間)

観覧者数：2,962名

令和5年度の1～3月期に開催した企画展について、展示構成に変更なく、一部展示資料を入れ替え、後期展として開催した。

(2) 「U-15の考古学—ふくしまの平安時代のはじまりー」

会期：令和6年6月15日(土)～9月29日(日)

(開催日数92日間)

観覧者数：5,926名

1) 趣旨

企画展U-15の考古学シリーズは、小中学生の歴史学習の一助とともに、来館者の郷土や文化財に対しての理解や関心を深めることを目的としている。第3弾となる今回の展示では平安時代を取りあげ、小中学生の歴史の教科書を参考にしながら、陸奥国南部に当たる福島県域における当時の人々の暮らしの様子を当館の収蔵資料や関連遺跡の資料から紹介した。



ふくしまの平安時代のはじまりポスター

摂関政治や国風文化に象徴される貴族社会に対して、それらを支えた地方の暮らしづりについて考古資料を通してイメージしてもらった。

2) 展示の構成と内容

①白河関を越えて陸奥国へ

陸奥国南部における人々の暮らしを紹介する導入として、平兼盛の和歌「便りあらばいかで都に告げならむ今日白河の関は越えぬと」（拾遺和歌集）とともに、一遍聖絵（近代模写）に描かれた「白河の関」を紹介した。

②地方のくらし 白河郡

白河の関を越えて、はじめに訪れる白河郡を例にとり、律令制下における地方組織について白河郡衙遺跡群（関和久遺跡、関和久上町遺跡、借宿廃寺）の資料とともに解説し、また、周辺の集落遺跡の資料から当時の生活などについて紹介した。

③海沿いの郡 標葉・行方・宇多

金沢地区製鉄遺跡群（大迫遺跡、大船廻A遺跡ほか）、武井地区製鉄遺跡群（向田A遺跡、猪倉B遺跡ほか）などから推察される浜通り地方の鉄生産を中心に、律令制下の対蝦夷政策における陸奥国南部の役割の一端に触れた。



ふくしまの平安時代のはじまり

④山あいの集落

相馬市荻平遺跡、福島市弓手原A遺跡など山間部に営まれた集落遺跡を取り上げ、低地部に営まれた水稻耕作を生業とする集落とは異なつた、木器の製作など森林資源の開発を生業とする集落だった可能性を示した

⑤川べりのまつり

会津盆地の平安時代の遺跡では、流路跡から

墨書き土器や斎串をはじめ、祭祀に関わる特徴的な遺物が出土している。それらのいくつかの資料を展示した。

⑥ふくしまを詠んだ和歌

県内地名を詠みこんだ代表的な平安時代の和歌を紹介した。

「U-15 の考古学 ふくしまの平安時代のはじまり」展示資料一覧

所在地	遺跡名	資料名	点数	所在地	遺跡名	資料名	点数
地方のくらし 白河郡							
泉崎村	関和久上町遺跡	軒丸瓦	4	矢吹町	上宮崎A遺跡	土師器 杯	5
泉崎村	関和久上町遺跡	軒平瓦	1	矢吹町	上宮崎A遺跡	カマド支脚	1
泉崎村	関和久官衙遺跡	墨書き土器「厨」(県重文)	2	矢吹町	上宮崎A遺跡	砥石	1
泉崎村	関和久官衙遺跡	墨書き土器「白」(県重文)	6	矢吹町	上宮崎A遺跡	転用硯	1
泉崎村	関和久官衙遺跡	円面硯(県重文)	3	泉崎村	関和久官衙遺跡	炭化米(県重文)	1
泉崎村	関和久官衙遺跡	転用硯(県重文)	5	矢吹町	上宮崎A遺跡	鉄製鋤・鍔刃	1
泉崎村	関和久官衙遺跡	墨書き土器「有」(県重文)	1	矢吹町	上宮崎A遺跡	鉄製鎌刃	1
泉崎村	関和久官衙遺跡	墨書き土器「守」(県重文)	1	玉川村	江平遺跡	鉄製紡錘車	1
泉崎村	関和久官衙遺跡	須恵器 長頸壺(県重文)	1	-	復元品	軒丸瓦	1
白河市	板倉前B遺跡	耳皿	1	-	復元品	軒平瓦	1
泉崎村	関和久官衙遺跡	耳皿	1	-	復元品	風字硯	1
泉崎村	関和久上町遺跡	灰釉陶器 瓶	1	-	復元品	刀子	1
泉崎村	関和久官衙遺跡	緑釉陶器(県重文)	1	-	復元品	円面硯	1
泉崎村	関和久官衙遺跡	灰釉陶器(県重文)	5	-	復元品	筆	1
矢吹町	白山C遺跡	鉄具	1	-	復元品	鋤	1
いわき市	大猿田遺跡	銅製丸鞆	1	-	復元品	手鎌	1
白河市	板倉前B遺跡	石製巡方(石帶)	1	-	復元品	鎌	1
楢葉町	鍛冶屋遺跡	筒形土器	3	-	復元品	鍔先	1
矢吹町	上宮崎A遺跡	刻書き土器「#」	1	-	復元品	紡錘車	1
矢吹町	上宮崎A遺跡	土師器 龍	2	-	復元品	横槌	1
矢吹町	上宮崎A遺跡	小型甕	2				
海沿いの郡							
浪江町	赤坂D遺跡	軒丸瓦	1	-	復元品	漆紙文書	1
浪江町	赤坂D遺跡	軒平瓦	1	-	復元品	鎌	1
南相馬市	植松C遺跡	軒平瓦	1	-	復元品	砥石	1
南相馬市	大迫遺跡	墨書き土器「厨」	1	-	復元品	刀子	1
南相馬市	大迫遺跡	耳皿	1	-	復元品	手鎌	1
南相馬市	大船泊A遺跡	墨書き土器「厭酒杯」	1	-	復元品	斧	1
南相馬市	割田H遺跡	炉壁	5	-	復元品	小釜	1
南相馬市	割田H遺跡	羽口	3	-	復元品	火鑽金・石	1
新地町	向田A遺跡	獸脚鋳型	2	-	復元品	塩桶	1
相馬市	山田A遺跡	獅嘴付獸脚鋳型	2	-	復元品	獸脚付容器	1
相馬市	猪倉B遺跡	獸脚鋳型	5	-	復元品	梵鐘	1
新地町	向田A遺跡	羽釜鋳型	1	-	-	木炭	1
新地町	向田A遺跡	梵鐘鋳型	1	-	-	砂鉄	1
南相馬市	大六天遺跡	ヘラ書須恵器「少毅殿」	1	南相馬市指定文化財(南相馬市所蔵)			
川べりのまつり							
会津若松市	西木流C遺跡	斎串	2	会津若松市	上吉田遺跡	墨書き土器「善」	5
会津若松市	西坂才遺跡	脚部片	3	会津若松市	鶴沼C遺跡	墨書き土器「吉集」	1
会津若松市	西坂才遺跡	円面硯	1	会津若松市	鶴沼B遺跡	墨書き土器「財」	1
会津若松市	鶴沼B遺跡	墨書き土器	3	会津若松市	鶴沼C遺跡	墨書き土器「富」	1
山あいの集落							
相馬市	荻平遺跡	土師器 龍	4	相馬市	荻平遺跡	砥石	1
相馬市	荻平遺跡	須恵器 龍	2	相馬市	荻平遺跡	刀子	2
相馬市	荻平遺跡	土師器 杯	5	相馬市	荻平遺跡	鉄鎌	3
相馬市	荻平遺跡	土師器高台杯	1	福島市	弓手原A遺跡	皿 未成品	5
相馬市	荻平遺跡	土師器 鉢	1	-	復元品	曲物	1
相馬市	荻平遺跡	筒形土器	3	-	復元品	椀	1
相馬市	荻平遺跡	石製巡方(石帶)	2	-	復元品	皿	2

3) 成果と反省

当館収蔵資料を生かして、平安時代のふくしまの特性を紹介することとともに、主な来館者が県南域であることも想定して企画した。中学生にも関心を持ってもらおうと中学校で利用する歴史の教科書を参考にしたこともあり、小学生にはやや難しく感じられたようである。

その一方で、近年、増加傾向にある展示目的で来館される一般来館者にはビギナー向けの歴史ものとして好評であった。アンケートでは、歴史愛好家の方には解説パネルや解説資料が物足りないと指摘もあったが、テーマの統一感や復元資料の活用、コーナーごとに掘り下げた内容など、こちらの意図を組んでいただけた意見もあった。

今後の課題としては、小中学生、特に中学生の利用に結びつけることである。このU-15の考古学シリーズは、当館の特色ある事業のひとつであることから、次年度以降も継続することで認知度を高め、小中学校での活用とともに新たな来館者層の獲得につなげていきたい。

(3) 企画展「この木、なんの木？前田遺跡！一縄文時代の植物利用－」

会期：令和6年10月26日(土)～12月15日(日)

(前期展示：10月26日(土)～11月24日(日)、
後期展示：11月26日(火)～12月15日(日))

(開催日数44日間)

観覧者数：3,236名

1) 趣旨

川俣町前田遺跡は縄文時代の集落遺跡であり、縄文土器や石器の他にも色鮮やかな漆器を含む木製品や縄文人骨、木柱など通常では残ることの少ない遺物が多数見つかっており、全国的にも注目されている。

現在、調査報告書の刊行に向けて資料整理作業の途上であるが、脆弱な出土品の保存処理や各種の自然科学分析等に関して、順次成果が上がってきてている。

今回の企画展では豊富な出土資料の中から木製品及び木質遺物を中心取り上げた。これらを分析するための自然科学的な方法を紹介するとともに、現段階までに分かっている前田遺跡の縄文時代の植物利用についての速報とした。

また、資料保全の観点から会期を前・後期に



この木、なんの木？前田遺跡！ポスター



この木、なんの木？前田遺跡！

この木、なんの木？前田遺跡！一縄文時代の植物利用－ 展示品一覧

前田遺跡とは？							
この木、なんの木？							
資料名	樹種	時期	備考	資料名	樹種	時期	備考
1 漆容器 壺		中期後半		24 弓未成品	ニシキギ属	中期後半	前期
2 漆容器 壺		中期後半		25 弓	ニシキギ属	中期後半	前期
3 漆容器 壺		中期後半		26 ウルシ木 (漆を採取したキズ有)	ウルシ	中期後半	後期
4 磨製石斧		中期後半		27 把手付浅鉢	ケンボナシ属	中期後半	後期
5 ウルシ木 (漆を採取したキズ有)	ウルシ	中期後半	前期	28 把手付鉢	ケヤキ	中期後半	後期
6 台脚	クリ	中期後半	前期	29 高台付鉢	トチノキ	中期後半	後期
7 櫛 (髪留め)	タケ亜科	中期後半	前期	30 粕子	ケンボナシ属	中期後半	後期
8 櫛 (髪留め)	タケ亜科	中期後半	前期	31 粕子	カエデ属	中期後半	後期
9 漆塗腕輪		中期後半	前期	32 石斧柄	クマノミズキ属	後期前葉	後期
10 把手付浅鉢	ケンボナシ属	中期後半	前期	33 石斧柄	クマノミズキ属	中期後半	後期
11 蓋または容器	カエデ属	中期後半	前期	34 石斧柄	コナラ属コナラ節	中期後半	後期
12 浅鉢	ケンボナシ	中期後半	前期	35 石斧柄	ニレ属	中期後半	後期
13 浅鉢	トチノキ	中期後半	前期	36 火切臼	ニレ属	中期後半	後期
14 浅鉢	ケヤキ	中期後半	前期	37 棒状木製品	ムラサキシキブ属	中期後半	後期
15 石斧柄	ニレ属	中期後半	前期	38 尖り棒	ムラサキシキブ属	中期後半	後期
16 石斧柄	ニレ属	中期後半	前期	39 刈払具	ムラサキシキブ属	中期後半	後期
17 石斧柄	クマノミズキ属	中期後半	前期	40 横槌	ムラサキシキブ属	中期後半	後期
18 石斧柄	カエデ属	中期後半	前期	41 棒状木製品	ムラサキシキブ属	中期後半	後期
19 尖り棒	ムラサキシキブ	中期後半	前期	42 儀仗形木製品	クリ	中期後半	後期
20 刈払具	ムラサキシキブ属	中期後半	前期	43 弓	ニシキギ属	中期後半	後期
21 槌	ムラサキシキブ属	中期後半	前期	44 弓	ニシキギ属	中期後半	後期
22 不明木製品	イヌガヤ	後期前葉	前期	45 弓	ニシキギ属	中期後半	後期
23 弓	ニシキギ属	中期後半	前期				
編んだり、組んだり…							
資料名	樹種	時期	備考	資料名	樹種	時期	備考
46 素材束	タケ・ササ類	中期後半		52 編み組製品 筐?	タケ・ササ類	中期後半	
47 素材束	タケ・ササ類	中期後半		53 編み組製品 筐?	タケ・ササ類	中期後半	
48 素材束	タケ・ササ類	中期後半		54 編み組製品 大型籠?	タケ・ササ類	中期後半	
49 素材束	タケ・ササ類 (付随木材あり 広葉樹、アサダ、 チドリノキ)	中期後半		55 編み組製品	タケ・ササ類	後期前葉	
50 編み組製品 筐	タケ・ササ類	中期後半		56 編み組製品 敷物	タケ・ササ類	中期後半	
51 編み組製品 筐	タケ・ササ類?	中期後半					
ムシは無視できない							
資料名		時期	備考	資料名		時期	備考
57 ツノアオカメムシ		中期後半		58 ヒメコガネ		中期後半	
探る。測る。							
資料名	樹種	時期	備考	資料名	樹種	時期	備考
59 木柱輪切り資料	クリ	晚期後葉		60 オニグルミ		中期後半	一式
ノコリをノコス。							

前期21点、後期20点、通期19点 合計 60 点

分け、一部の展示品の入れ替えを行った。

2) 展示の構成と内容

①導入 前田遺跡とは…

前田遺跡や調査の概要について説明した。

②この木、なんの木？

木製品を樹種同定結果とともに展示し、道具の種類によって使用する木材を変えていたことに触れる。

③編んだり、組んだり…

さまざまな編み組製品を展示し、製作した縄文人の技術の高さを来館者に感じてもらう。

④ムシは「無視」できない

昆虫は種によって生育環境が異なることから、見つかった昆虫片から当時の前田遺跡の周辺環境を推測する。

⑤測る。探る。

前田遺跡の発掘調査・整理作業では年代測定など、さまざまな自然科学的手法を取り入れており、その成果について取り上げる。

⑥ノコリをノコス

文化財の保存処理について取り上げ、出土資料を将来へと「残す」ことの重要性について説明する。

3) 成果と反省

展示資料を樹種ごとに展示したことや樹種の解説について来館者から好反応を得られた。また、通常に比べて県外からの来館者が多く、前田遺跡の注目度の高さに加え、チラシやホームページによる宣伝の効果があったと考えられる。さらに、本企画展の展示資料については、ほとんどが木質遺物で構成した。資料にとって適切な展示環境を創出するために計画及び準備を綿密に行なったことにより、各種の改善点が判明したこととも成果といえる。

一方で、展示資料保護のため照度を下げていたことにより来館者から「展示室が暗い」という意見が挙がった。展示環境についてパネル等による表示を行い、来館者の理解を得られるよう努めたい。

(4) 「復興祈念展—人びとのいとなみの継承—」前期展

会期：令和7年1月25日(土)～3月16日(日)

(開催日数44日間)

観覧者数：1,800名

1) 趣旨

双葉町・大熊町にある中間貯蔵施設内の遺跡と、楢葉町の県道広野小高線に伴う遺跡調査の成果を当館収蔵資料及び被災ミュージアム再興事業により白河館の敷地内に仮保管される双葉・大熊両町の所蔵資料により紹介した。

中間貯蔵施設及び復興道路用地にも、いにしえの人びとのいとなみがあったことを知ることにより、地域の歴史を継承することの大切さに気づくきっかけになればとの思いから本展を企画した。

2) 展示の構成と内容

①中間貯蔵施設建設地内の遺跡

中間貯蔵施設建設地内の遺跡のうち、双葉町の6遺跡、大熊町の4遺跡から出土した資料を紹介した。

展示方法については、資料と写真パネルを用いて、来館者が資料の出土状況を理解できるようにした。

②県道広野小高線の遺跡

県道広野小高線の遺跡は楢葉町の南代遺跡から出土した資料を紹介した。



復興祈念展ポスター

3) 成果と反省

中間貯蔵施設建設地内にいかに多くの遺跡があるかを、多くの人に知つてもらうことができたのは大きな成果であった。

また、来館者から発掘調査区の全景写真に自宅が写っていて感動したとの言葉をいただけたことも、本企画展の成果の一つであろう。

一方、遺跡についての解説が欲しいとの要望があった。これについては、遺跡解説資料の配布で代用したが、今後の課題として対応したい。



復興祈念展

「復興祈念展一人びとのいとなみの継承一」展示資料一覧

中間貯蔵施設内の遺跡								
双葉町 銅谷廻遺跡								
資料名	時期	点数	資料名	時期	点数	資料名	時期	点数
土師器 高杯	飛鳥時代	1	土師器 甌	飛鳥時代	1	取鍋	江戸時代	1
土師器 杯	飛鳥時代	4	土師器 甌	奈良時代	1	羽口	江戸時代	1
土師器 鉢	飛鳥時代	1	平瓦	奈良時代	2			
土師器 甌	飛鳥時代	1	土師器 甌	奈良時代	1			
双葉町 後庭B遺跡								
資料名	時期	点数	資料名	時期	点数	資料名	時期	点数
土師器 高杯	古墳時代前期	1	土師器 甌	古墳時代後期	3	錫杖頭	江戸時代	1
土師器 鉢	古墳時代前期	1	土師器 甌	古墳時代後期	1	磁器 盃	近現代	1
土師器 甌	古墳時代前期	1	土師器 杯	奈良時代	2	磁器 湯飲み	近現代	1
土師器 杯	古墳時代後期	4	須恵器 壺	奈良時代	1	磁器 銚子	近現代	1
土師器 梢	古墳時代後期	1	赤焼土器 杯	平安時代	1	牛乳瓶	近現代	1
大熊町 梨木平遺跡								
資料名	時期	点数	資料名	時期	点数			
土師器 杯	奈良時代	3	羽口	奈良時代	1			
須恵器 甌	奈良時代	1	鉄滓	奈良時代	2			
双葉町 郡山貝塚								
資料名	時期	点数	資料名	時期	点数	資料名	時期	点数
鹿角製刺突具未製品	縄文時代前期前葉	12	貝殻(イボキサゴ)	縄文時代前期前葉	1	貝殻 (コシダカガシガラ)	縄文時代前期前葉	1
魚骨(マアジ)	縄文時代前期前葉	1	貝殻(スガイ)	縄文時代前期前葉	1	貝殻 (ヤマトシジミ)	縄文時代前期前葉	1
魚骨(カタクチイワシ)	縄文時代前期前葉	1	貝殻(アサリ)	縄文時代前期前葉	1	貝殻(ハマグリ)	縄文時代前期前葉	1
双葉町 沼ノ沢古墳群3号墳								
資料名	時期	点数	資料名	時期	点数	資料名	時期	点数
須恵器 壺	飛鳥時代	1	管玉	飛鳥時代	8	ガラス玉	飛鳥時代	29
勾玉	飛鳥時代	18	切子玉	飛鳥時代	11			
双葉町 郡山五番遺跡								
資料名	時期	点数	資料名	時期	点数			
軒丸瓦	奈良時代	2	軒平瓦	奈良時代	1			
双葉町 陳場沢窯跡群								
資料名	時期	点数	資料名	時期	点数	資料名	時期	点数
須恵器 杯	飛鳥時代	3	須恵器 蓋	飛鳥時代	3	須恵器 甌	飛鳥時代	1
大熊町 南沢遺跡								
資料名	時期	点数	資料名	時期	点数	資料名	時期	点数
縄文土器 台形土器	縄文時代中期	1	縄文土器 無頸土器	縄文時代後期	1	縄文土器 注口土器	縄文時代後期	1
大熊町 北台遺跡								
資料名	時期	点数	資料名	時期	点数	資料名	時期	点数
石匙	縄文時代	3	尖頭器	縄文時代	1	石庖丁	弥生時代	1
大熊町 女迫遺跡								
資料名	時期	点数						
土師器 台付甌	古墳時代前期	2						
県道広野小高線の遺跡								
資料名	時期	点数						
通風管	奈良時代	4						
						合計 153 点		

3. 講演会等

(1) 館長講演会

令和6年度の館長講演会は計5回開催した。第4回については、館長と会津坂下町教育委員会吉田博行氏による講演を実施した。なお、館長講演会の配布資料は、ホームページ上で公開した。



第3回館長講演会

(2) 子ども考古学教室

企画展「U-15の考古学—ふくしまの平安時代のはじまりー」の関連企画として、子ども向けの講座を2回行った。

第1回は、白河市建設部文化財課の鈴木功氏を講師として招聘し、「古代のしらかわ」と題した講義を行った。県南地域を代表する史跡から古代史を学べる興味深い内容であったが、歴史学習を始める小中学生の参加が少なく残念で

あった。継続的に実施しながら、裾野を広げていくことが必要と感じた。

第2回は、「県内地名の詠まれた和歌」と題して、和歌の解説と平安時代の和紙工芸をアレンジした継ぎ紙体験の2部構成で、午前・午後



子ども考古学教室 2

講演会実施状況

館長講演会	演題		実施日	受講者数
	第1回館長講演会 「右と左の考古学」		令和6年6月15日	34名
	第2回館長講演会 「石斧の考古学」		令和6年8月24日	28名
	第3回館長講演会 「縄文土器を読む—私が惚れたまほろんの一品—」		令和6年9月22日	26名
	第4回館長講演会 「地中から地域史を描き直す—会津坂下町の吉田博行さんをお迎えして—」		令和6年12月8日	29名
	第5回館長講演会 「時間の考古学」		令和7年2月15日	36名
文化財講演会等	演題	講師	実施日	受講者数
	講座 子ども考古学教室1 「古代のしらかわ」	鈴木 功 (白河市建設部文化財課)	令和6年7月21日	21名
	講座 子ども考古学教室2 「県内地名の詠まれた和歌」	当館職員	令和6年8月4日	33名
	講演会 この木、なんの木?前田遺跡関連講演会1 「前田遺跡から出土した編み組製品」	國井秀紀 (福島県文化振興財団遺跡調査部)	令和6年10月27日	42名
	講演会 この木、なんの木?前田遺跡関連講演会2 「前田遺跡出土木製品の樹種同定」 「前田遺跡を掘る」	能城修一 (明治大学黒曜石研究センター) 中野幸大 (福島県文化振興財団遺跡調査部)	令和6年11月30日	56名
	講演会 復興祈念展関連講演会1 「銅谷迫遺跡・後迫B遺跡の調査について」	青山博樹 (福島県文化振興財団遺跡調査部)	令和7年1月26日	19名
	講演会 復興祈念展関連講演会2 「福島県における復興調査について」	轟田克史 (福島県教育庁文化財課)	令和7年3月1日	17名

の2回実施した。未就学児を含めた家族で楽しめるワークショップを目指していたが、事前の予約数は伸びず、当日来館のお客様に参加を呼びかけた。参加者の微笑ましい様子から、家族の時間に文化財や歴史の要素を取り入れることができたように感じた。

(3) この木、なんの木？前田遺跡！関連講演会

川俣町前田遺跡遺物に関する調査研究成果についての講演会を2回開催した。

第1回は、福島県文化振興財団遺跡調査部の國井秀紀氏による「前田遺跡から出土した編み組製品」を開催した。日本各地の縄文時代の出土編み組製品及び前田遺跡から出土した編み組製品から観察される、編み方や、地域による使用素材の違いなどについて、現代に残る民俗技術とも比較しながら解説した。また、講師自ら収集・製作した編み組の素材や、様々な編み方がされた製品を展示したほか、素材加工の実演も行った。



前田遺跡の編み組製品

第2回は明治大学黒曜石研究センターの能城修一氏と福島県文化振興財団遺跡調査部の中野幸大氏の講演を実施した。

前田遺跡で出土した木質遺物全ての樹種同定を担当している能城氏からは、最初に、木材の構造や、その樹種同定方法についての基本的な解説があった。さらに、出土する木材から、遺跡の周辺環境や資源管理の状況が推測できることを示し、具体的な前田遺跡の事例について解説した。最後に、木材の樹種同定のためのサンプル採取方法を実演した。

前田遺跡の調査担当者である中野氏は、「前田遺跡を掘る」と題して、前田遺跡で見つかった遺構の時期ごとの変遷や、出土遺物について、整理作業で判明した内容を解説した。



前田遺跡出土木製品の樹種同定

(4) 復興祈念展関連講演会

企画展「復興祈念展—一人ひとりのいとなみの継承—」に関する講演会を2回開催した。

第1回は「銅谷迫遺跡・後迫B遺跡の調査について」とし、福島県文化振興財団遺跡調査部青山博樹氏による講演会を開催した。双葉町の中間貯蔵施設用地内に所在する両遺跡の調査を担当した氏より、避難指示区域での発掘調査の様子や、双葉町郡山地区の遺跡群における各遺跡の位置付けに関する解説があった。

第2回は「福島県における復興調査について」とし、福島県教育庁文化財課南相馬市駐在轡田克史氏による講演会を開催した。東日本大震災における復興調査の方針・体制・基準の策定や、中間貯蔵施設建設地内での防護服・マスクを装着した調査の過酷さを解説した。



福島県における復興調査について

4. 体験学習・イベント

(1) いつでもできる体験学習

1) 個人利用者対象メニュー

常設の体験スペースである体験活動室を中心に、個人の来館者を対象に実施している体験学習である。「勾玉づくり」「火おこしに挑戦」「まほろんクイズラリー」「月替わりメニュー」を通年で提供した。

「勾玉づくり」は毎日、「火おこしに挑戦」は土日祝日に限定して実施した。「火おこしに挑戦」については、令和5年度は新型コロナウイルス感染症対策として、同時受け入れ人数を1組2~3人としていたが、令和6年度から制限を廃して、正午から1時間の休憩時間を除き、いつでも体験可能なものとした。

「まほろんクイズラリー」は、展示に係る問

個人利用者対象メニュー実施状況

実施期間	内容（体験料）	参加人数
4/2~4/29	けつ状耳飾りづくり（200円）	185名
5/1~5/31	縄文コースターづくり（200円）	190名
6/1~6/30	ミニぞうりづくり（アクリルたわし）（150円）	77名
7/2~7/31	折り染めうちわづくり（200円）	227名
7/2~7/19	七夕風車づくり（100円）	46名
7/20~8/18	瓦消しゴムづくり（200円）	252名
8/1~8/31	柿渋染エコバッグづくり（300円）	288名
9/1~9/29	刀子形石製模造品づくり（200円）	113名
10/1~10/31	どばん風ミラーづくり（100円）	74名
11/1~11/30	原始もようペンダントづくり（100円）	234名
12/1~12/27	お正月飾りづくり（100円）	111名
1/5~1/31	扇づくり（200円）	92名
	縄文マグネット（100円）	17名
2/1~2/28	石鹼せっけんづくり（100円）	101名
	ふくしまのおひなさまをつくろう（100円）	65名
3/1~3/30	絵付け体験（200円）	39名
	縄文マグネット（100円）	145名
季節実施メニュー	まほろんクイズラリー（春）4・5・6月（無料）	214名
	まほろんクイズラリー（夏）7・8・9月（無料）	874名
	まほろんクイズラリー（秋）10・11・12月（無料）	813名
	まほろんクイズラリー（冬）1・2・3月（無料）	310名
	紋切りカレンダー 5・6月（無料）	122名
	紋切りカレンダー 7・8月（無料）	240名
	紋切りカレンダー 9・10月（無料）	100名
	紋切りカレンダー 11・12月（無料）	60名
	紋切りカレンダー 1・2月（無料）	70名
	紋切りカレンダー 3月（無料）	50名
通年実施メニュー	勾玉づくり（350円）	2,004名
	火おこしに挑戦（無料）	2,807名

題を解きながら屋内外を巡るもので、3か月ごとの春夏秋冬の4回、出題内容を変えて実施した。正面玄関入口に回答用紙、プロムナードギャラリー中央に解答と特典であるシールを置いておき、自由に参加できるようにしている。

「月替わりメニュー」は、収蔵資料や季節の行事に関連させ、一月ごとに代わっていく有料の体験学習である。実施した「月替わりメニュー」は、新規の企画のほか、コロナ禍以前に実施していた体験学習のリニューアルなども行っている。

12月の「お正月飾りづくり」では、福島白河猿工芸の高橋氏と添田氏の技術指南を得て、稻わらよりしめ縄を縫うところから始め、これに飾りをつける体験としたところ、年齢を問わず、大人も多数参加する結果となった。2月には企画展「復興記念展」と関連させ、双葉町後迫B遺跡出土の石剣をモチーフにした「石剣せっけんづくり」を行った。同月には、昨年に引き続き、福島県重要文化財である「只見川流域のひな流し」に用いる雛人形をモチーフにし



お正月飾りづくり

た「ふくしまのおひなさまをつくろう」も行った。期間中、福島県立博物館制作の「只見川のひな流し」の映像を体験活動室と常設展示室にて上映し、参加者の理解が深まるよう図った。3月に実施した、常設展示室に展示中の喜多方市高堂太遺跡出土の染付皿をモデルにした「絵付け体験」は好評につき、すぐに完売した。

また、無料の体験学習として各種のペーパークラフトを実施している。令和6年度からは江戸時代発祥といわれる「紋切りあそび」を取り入れた「紋切りカレンダー」を開始した。当館で用意した型紙を使用し、体験者自身が日本の季節に応じた切り絵を行ってカレンダー1台紙へ絵などを描き足し作成する。2ヶ月ごとに内容を変えて提供し、好評だったため、令和7年度も継続して実施している。

2) 団体利用者対象メニュー

事前予約の必要な団体利用者向けの体験メニューとして、別表の7種を用意した。令和6年度から新たに「ミニミニ土器づくり」を加えたほか、コロナ禍以前には団体利用者も対象としていた「火おこしに挑戦しよう」、「本格的な土器づくり（入門編）」の2つの体験学習を再開させた。

ミニミニ土器づくりは、令和5年度に体験活動室の月替わりメニューとして実施していたものである。はにわ粘土を材料とし、心材としてプラスチックコップを使用して輪積みを行い、成形がより容易になるようにしている。

団体利用者対象メニューの体験利用割合としては「縄文マグネットづくり」の利用が最も多かった。

団体利用者対象メニュー実施状況

内容	参加人数
勾玉づくり	161名
火おこしに挑戦	71名
縄文マグネットづくり	377名
ミニミニ土器づくり	50名
本格的な土器づくり（入門編）	0名
むかしの道具にふれてみよう	64名
グループで考えよう（土器片観察）	15名
合計	738名

（2）募集型体験学習

1) 実技講座

考古資料や福島県内を中心とした伝統文化に関連した「モノづくり」を通して、原始・古代の技術を追体験することを目的とした、事前申込制の個人向けの体験講座である。令和6年度は6講座を実施した。

講座の内容としては、企画展「U-15の考古学」に関連して小中学生を対象としたU-15実技講座「土器づくり」をはじめ、「土笛づくり」、「縄文土器づくり」など当館収蔵資料を活用した講座を中心に実施した。参加者は実際に本物の土器を観察しながら製作することができた。その他、外部講師を招聘して県内の伝統工芸を学ぶ「大堀相馬焼に挑戦」（講師：いかりや窯 山田慎一氏）、「白河だるまづくり」

（講師：佐川だるま製造所 佐川理沙氏）を実施した。「白河だるまづくり」では参加者の作品を福島ビエンナーレ2024「風月の芸術祭in白河」にて8月24日（土）～9月15日（日）の期間、マイタウン白河で展示した。

また、令和3年度から開講しているネット配信での「おうちでできる土器づくり」を引き続き提供した。

実技講座実施状況

講座名	実施日	参加人数
白河だるまづくり①だるまの彩色	令6.5.25	14名
白河だるまづくり②だるまの顔書き	令6.6.29	14名
U-15実技講座「土器づくり」	令6.7.27-28	29名
土笛づくり	令6.8.25	8名
大堀相馬焼に挑戦①ろくろ体験 絵付け体験	令6.10.13	8名
大堀相馬焼に挑戦②墨入れ体験	令6.11.17	4名
縄文土器をつくろう①制作	令7.1.18-19.25	25名
縄文土器をつくろう②野焼き	令7.3.9	8名
おうちで土器づくり	令6.5.16～令7.3.4	24名
合計		134名

2) まほろん森の塾

『まほろん森の塾』は、小中学生を募集対象として実施する通年型の体験学習講座である。昔のくらしや技術を体験することにより、歴史をわかりやすく、親しみやすく学習することを目的にしている。開館から続く講座で、令和6年度は24期生として13名の塾生を迎えた。

今回は「お米づくり」を通じて、人々の暮らしや技術のうつりかわりを考えることをテーマに全5回の講座を実施した。第1回は現代からむかしへお米の作り方の歴史を振り返った。その後、バケツ稻の田植え、お米づくりにかかる昔の道具に触れる体験、火おこし体験をした。第2回では稻の手入れ、実技講座「土笛づくり」をもとに展示中の土笛を観察、スケッチした後に土笛を制作した。第3回では滑石による石包丁づくりを行った。また高校生のまほろんボランティアの協力を得、館内のお米にまつわる展示品を探す「おこめづくりについてみつけよう」というワークショップを行った。参加した高校生ボランティアからは「年齢の異なる年代同士の交流により、相互に気づきがあった」との感想があった。第4回は前回制作した石包丁を使用してバケツ稻の穂摘みを行い、稻わらを刈り取った後、天日干しにした。その後、前回のワークショップの成果を参考に、お米づくりにかかる当館の展示品MAPづくりを行った。第5回は塾生自らが育てた稻のわらを用いてしめ縄づくりを行った。また同じく第4回の成果である自分たちの製作したMAP「まほろんでみつけたよ！おこめづくり」を使って保護者と一緒に館内を見学した。このMAPは、一般来館者にも「おこめづくりに関わるものさがし」を楽しんでもらうことをねらい、常設展示室に配架している。

塾生からは「お米づくりの大変さが分かった」「歴史を学びながら自分でお米やしめ縄などを作れてよかった」との感想があった。



まほろん森の塾

まほろん森の塾実施状況

内容	実施日	参加人数
第1回 昔のどうぐ、稻を植える	令6・6・9	12名
第2回 土笛づくり、企画展見学	令6・7・7	11名
第3回 滑石製石包丁づくり お米についてみつけよう"	令6・9・8	12名
第4回 地図づくり、稻刈り	令6・10・20	10名
第5回 地図をつかってみよう、企画展見学 正月飾りづくり(しめ縄)	令6・12・8	13名
		合計 58名

(3) 特別体験・イベント

1) 特別体験

ゴールデンウィーク及び夏休み期間は、期間限定メニューを用意して特別体験を実施した。

ゴールデンウィーク期間では、特別メニューとして弓矢体験、バックヤードツアー、拓本鯉のぼりづくり、甲冑試着体験などを毎日開催した。通常メニューについても、いつもは曜日限定としている火おこしを毎日開催した。9日間の開催で2千人を超える来館者が訪れた。

学校の夏休みにあわせて設定した特別体験期間では、特別メニューとして七夕風車づくりや無料の七夕短冊づくり体験など季節を感じてもらう体験を実施した。また、夏休み期間の限定体験メニューとして、同時期に開催中であった企画展「U-15の考古学 ふくしまの平安時代のはじまり」と関連させた瓦消しゴムづくりを実施したところ、大好評となり、予定数より大幅に増産したうえで完売となった。期間中の来館者は、前年比で500人を超す増加を示す結果となった。



瓦消しゴム

2) イベント

11月2日～4日にかけて「まほろん感謝デー」を開催した。10月から開催の企画展「この木、なんの木？前田遺跡！」と関連して、漆塗りのしおりづくりや編み組コースターづくりなどのイベント限定メニューを実施したほか、難易度の高いクイズラリー「まほろんクエスト」では施設全体が正解を探す来館者で賑わった。

また、他館との連携によりアクアマリンふくしまによる移動水族館「アクアラバン」の展示や、那須高原ビジターセンターによる「焼きパンコースターづくり」、国立那須甲子青少年自然の家による「缶バッヂづくり」などのものづくり体験を実施し、大盛況となった。

(4) おでかけまほろん

県内の学校や社会教育施設における体験学習を支援するための事業である。まほろんへの来館が困難であるなどの理由で申請のあった学校や諸施設に対して、白河館職員が収蔵資料や体験学習資材を携えて出向き、文化財や地域の歴史に対する理解を深めることを目的としている。

体験活動の内容は、実施校・施設で事前に担

当者と打合せを行い、「土器や石器を観察しよう」を必須として、活動内容によって「火おこしに挑戦」「勾玉づくり」の他、「弓矢体験」「ミニミニ土器づくり」などを加えて実施した。



おでかけまほろん(視覚支援学校)

おでかけまほろん実施状況

No.	学校名	学年・科目	体験内容	実施日	参加人数
1	南相馬市立原町第二小学校	6学年	土器石器観察、学校周辺の遺跡について、火おこし体験	5月23日(木)	34名
2	南相馬市立石神第二小学校	6学年	土器石器観察、学校周辺の遺跡について、火おこし体験	5月23日(木)	48名
3	伊達市立保原小学校	6学年	土器石器観察、学校周辺の遺跡について、火おこし体験	5月30日(木)	96名
4	柳津町立柳津小学校	6学年	土器石器観察、学校周辺の遺跡について、火おこし体験	6月13日(木)	20名
5	本宮市立糠沢小学校	6学年	土器石器観察、学校周辺の遺跡について、勾玉づくり	6月20日(木)	16名
6	本宮市立五百川小学校	6学年	土器石器観察、学校周辺の遺跡について、火おこし体験	6月20日(木)	39名
7	喜多方市立山都小学校	6学年	土器石器観察、学校周辺の遺跡について、火おこし体験	6月27日(木)	12名
8	いわき市立宮小学校	5・6学年	土器石器観察、学校周辺の遺跡について、火おこし体験	7月4日(木)	15名
9	いわき市立湯本第二小学校	6学年	土器石器観察、学校周辺の遺跡について、火おこし体験	7月4日(木)	22名
10	郡山市立東芳小学校	6学年	土器石器観察、学校周辺の遺跡について、火おこし体験	7月11日(木)	14名
11	郡山市立小原田小学校	6学年	土器石器観察、学校周辺の遺跡について、火おこし体験	7月11日(木)	65名
12	喜多方市姥堂公民館	小学生と地域の方	土器石器観察、公民館周辺の遺跡について	7月28日(日)	25名
13	二本松市立杉田小学校	6学年	土器石器観察、学校周辺の遺跡について、勾玉づくり	9月12日(木)	31名
14	福島県立ふたば支援学校 中学部	1、3学年	土器石器観察、学校周辺の遺跡について、ミニ土器づくり	9月26日(木)	7名
15	福島県立たむら支援学校 高等部	1学年	土器石器観察、学校周辺の遺跡について、勾玉づくり	10月3日(木)	11名
16	国見町公民館	小4～6	土器石器観察、公民館周辺の遺跡について、勾玉づくり	10月20日(日)	30名
17	福島大学付属特別支援学校 高等部	1～3学年	土器石器観察、学校周辺の遺跡について、弓矢体験	11月14日(木)	23名
18	小野町ふるさと文化の館	小学生と保護者	土器石器観察、公民館周辺の遺跡について、火おこし体験、ミニ土器づくり	11月17日(日)	10名
19	福島県立視覚支援学校 小学部・中等部	小4・5、中1～3学年	土器石器の触察、縄文施文体験	11月21日(木)	3名
20	いわき市立勿来第二小学校	6学年	土器石器観察、学校周辺の遺跡について、火おこし体験	11月28日(木)	20名
21	二本松市岩代公民館	小学生1～6年生	土器石器観察、公民館周辺の遺跡について、火おこし体験、ミニ土器づくり	12月1日(日)	8名
22	飯館村立いいたて希望の里 前期課程	5・6学年	土器石器観察、学校周辺の遺跡について、勾玉づくり	12月12日(木)	11名
				合計	560名

5 文化財に関する情報発信

1. ホームページによる情報発信

令和6年度のホームページアクセス数の推移を下表に示した。年間総アクセス数は33,810件であった（前年度：34,925件）。なお平成13年（2001年）7月14日のホームページ開設以来の累計アクセス数は、99万件を超えており、

ホームページアクセス数

	月間アクセス数	累計アクセス数
4月	3,598	964,411
5月	3,500	967,911
6月	3,145	971,056
7月	3,649	974,705
8月	2,949	977,654
9月	2,668	980,322
10月	2,207	982,529
11月	2,891	985,420
12月	2,393	987,813
1月	2,636	990,449
2月	1,649	992,098
3月	2,525	994,623
合計	33,810	

2. データベースによる情報提供

◆全国文化財総覧

埋蔵文化財の発掘調査報告書を全文電子化して、インターネット上で検索・閲覧できる「全国文化財総覧」（令和7年3月31日に「全国遺跡報告総覧」から名称変更）に福島県教育委員会が刊行した文化財調査報告書、福島県文化財センター白河館が刊行した刊行物等を掲載している。令和7年3月31日時点で、文化財調査報告書211件、白河館の刊行物等167件のファイルを公開している。

3. SNSによる情報発信

令和2年度から、SNSの運用を正式に開始した。運用しているSNSは、「Instagram」、「Youtube」の2つである。

◆Instagram

毎週水曜日・土曜日の2回の更新を基本として運用している。記事は職員の輪番制で作成し、展示や体験活動の様子を公開している。令和6年3月31日時点でのフォロワー数は1,253名である。

◆Youtube

企画展関連動画を中心に発信している。令和7年3月31日時点でのチャンネル登録者数は、125名、動画の再生回数は15,625回である。

4. まほろん通信の発行

令和6年度は年4回発行した。発行日は4月17日・7月10日・10月16日・1月22日であり、各4,000部を発行し、全国文化財総覧にも掲載した。概要は以下のとおりである。

(1) まほろん通信Vol.91(春号4月17日発行)

- ・まほろん2024年度スケジュール
- ・まほろん研究報告「X線CT調査について」
- ・まほろん収蔵資料紹介「鉄製獸脚付手取釜」

(2) まほろん通信Vol.92(夏号7月10日発行)

- ・企画展紹介「U-15の考古学 ふくしまの平安時代のはじまり」
- ・館長からのメッセージ
- ・まほろん学芸員のひとりごと
- ・まほろん収蔵資料紹介「古代の木炭窯跡から出土した須恵器壺」

(3) まほろん通信Vol.93(秋号10月16日発行)

- ・企画展紹介「この木、なんの木？前田遺跡！」



まほろん通信vol.94

- ・まほろん学芸員のひとりごと
- ・まほろん企画展『U-15の考古学 ふくしまの平安時代のはじまり』関連講座 こども考古学教室
- ・まほろん常設展示室資料紹介「縄文時代の仮面」
- (4) まほろん通信Vol.94(冬号1月22日発行)
- ・まほろん令和6年度企画展「復興祈念展—ひとりのいとなみの継承—」
- ・レポート「まほろん感謝デー」
- ・「まほろん森の塾」活動報告
- ・まほろん学芸員のひとりごと
- ・まほろん常設展示室資料紹介「古墳時代の石製模造品」

6 文化財に関する研修及び技術支援

1. 概要

文化財関係業務を担当する市町村等の職員を対象に、文化財の保護・活用に必要な知識と技術を習得するための研修を行った。

令和6年度は、基礎研修2回と専門研修2回の計4回開催した。

その他に、要望に応じて、館内外で臨時的に開催する特別研修を6回実施した。

また、技術支援は、市町村からの依頼に応じて、出土品の保存処理、被災文化財の応急処置、文化財保全環境の整備等の専門的技術を要するものについて、支援を行うものである。令和6年度の実施件数は2件である。

2. 研修実施状況

(1) 基礎研修

1) 「文化財保護担当者研修」

石川町を会場に、石川町立歴史民俗資料館移転整備の実例について石川町教育委員会角田学氏による報告と、展示施設及び収蔵施設の見学を行った。

2) 「埋蔵文化財発掘調査研修」

白河館井憲治により「発掘調査報告書の見方」の講義を行った。本研修では、市町村の文化財担当職員に限らず、参加者を幅広く募集して開催した。

(2) 専門研修

1) 「文化財指導者研修会」

市町村の文化財保護審議委員等を対象とした研修会で、令和6年度は楢葉町を会場とした。

1日目は、福島県教育庁文化財課櫻井宗成氏による「福島県指定文化財の指定について」、白河館石川日出志館長による「楢葉天神原遺跡とその時代」の講義を行った。

2日目は、楢葉町教育委員会坂本和也氏による「震災復興と文化財保護—楢葉町の取組—」の講義を皮切りに、楢葉町×東京大学総合研究博物館連携ミュージアム大地とまちのタイムラインの展示施設及び収蔵施設の見学を行った。

2) 「文化財活用研修」

博物館の収蔵環境と文化財の活用に関する研修を行った。本研修では、白河館勝川若奈による「収蔵施設等整備に関する施設調査について」の報告、白河館佐藤璃子による「前田遺跡

文化財研修実施状況

区分	研修名	講師等	実施日	受講者数	場所
基礎研修	文化財保護行政実務者研修	角田 学 (石川町教育委員会)	令和6年7月19日	23名	石川町歴史民俗資料館イシニクル
	埋蔵文化財発掘調査研修	井 憲治 (白河館職員)	令和7年2月9日	12名	白河館
専門研修	文化財保護指導者研修会	櫻井宗成 (福島県教育庁) 坂本和也 (楢葉町教育委員会) 石川日出志 (白河館長)	令和6年10月3日 4日	延べ 81名	楢葉町
	文化財活用研修	勝川若奈 (白河館職員) 佐藤璃子 (白河館職員)	令和6年12月6日	13名	白河館
特別研修	臨時館外研修	西郷村立米小学校 出前授業	令和6年6月13日	42名	米小学校
	臨時館外研修	県立白河旭高等学校探求学習活動「地域のフロントランナーと話をしよう」	令和6年10月29日	15名	白河旭高等学校
	臨時館外研修	川内村ふるさと学校「土器づくり」	令和6年10月30日	25名	川内小中学園
	臨時館外研修	マイタウン白河カルチャー教室「勾玉づくり」	令和6年12月7日	3名	マイタウン白河
	臨時館外研修	川内村ふるさと学校「土器づくり」野焼き	令和6年12月8日	19名	川内村あきもと農園
	臨時館外研修	塙町青少年育成町民会議 はなわ探検隊「まほろん出前講座」	令和6年12月14日	32名	塙農村勤労福祉会館

出土木製品の展示方法について」の報告と開催中の「この木、なんの木？前田遺跡！」における展示状況の解説を行った。

（3）特別研修

臨時館外研修を5カ所6回にわたり実施した。県内の教育機関及び各種団体からの要望に応じて、出前教室、総合的探求学習や体験学習の講師として職員を派遣した。

3. 技術支援

技術支援については、2自治体からの要望に応じて、金属製品の劣化防止措置、土器表面の補強の2件の支援を実施した。

技術支援実施状況

内容	実施日
未指定文化財の保管環境及び劣化防止に関する助言（福島市）	令6.9.13
出土品の強化処置（川俣町）	令7.1.16～令7.3.31

7 文化財の活用に関する調査研究

1. 文化財の調査

白河館に収蔵されている金属製品、木製品、土器、土製品等について、X線CT等による詳細観察と理化学的分析を実施する事業である。

令和6年度は昨年度に引き続き、トロミ遺跡出土鞘尻金具や塙沢上原B遺跡出土土偶ほかのX線CT透過撮影による構造調査を実施した。

2. 体験学習等における試み

常設展示コーナー展として「X線CTで調べた まほろんの土偶たち」を実施し、当館収蔵土偶の展示とともに、そのX線CT動画を公開した。展示パネルに二次元コードを掲載し、来館者のスマートフォン等を用いて読み取ることによりX線CT動画を視聴する形式とした。また、福島県ハイテクプラザ主催のイベント「あつまれっ！ハイテクプラザ」に出展し、当館収蔵資料の構造調査に関する展示とX線CT画像の公開を行った。

その他、当館収蔵の石剣を象った「石剣せっけんづくり」、柿渋染めを施したエコバッグづくりやしめ縄を用いた正月飾りづくりなど考

古学や民俗学等の成果を加味した体験学習メニューを考案して実施した。

3. 文化財等に関する情報収集

（1）研修会等への参加

独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所、文化財活用センター及び文化財防災センター等主催の研修会やセミナーに参加した。

（2）アンケート調査の実施

市町村文化財行政の現状と課題を把握するため、文化財研修の出欠確認と併せ、アンケート調査を行った。

4. 研究紀要

「X線CTを用いた福島県内の動物形土製品の研究」等を収録した『研究紀要 第23号』を500部作成して関係機関に送付し、ホームページで公開した。

8 出土文化財の保存処理

福島県教育委員会が実施した発掘調査により出土した木質・金属質遺物等について、劣化防止等業務及び保存処理業務を実施した。

1. 劣化防止等業務

次の方法により、561件の劣化防止措置を行った。

（1）木質遺物

441件の劣化防止措置を行った。

水浸保存を図っている木質遺物（以下、水浸け遺物）は、劣化状態等の確認を行い、バクテリア等の劣化を促進させる付着物が発生している遺物については、筆等による除去及び洗浄を行った。洗浄を終えた水浸け遺物は、新たな保存液を入れなおし、可能な限り脱気した状態で封入した。

また、水浸け遺物の劣化状態を客観的に把握するため、推定含水率を測定した。

（2）金属質遺物

118件の劣化防止措置を行った。

脱酸素剤封入済みの金属遺物について、遺物の形状変化及び無酸素状態指示剤の変色度合いの確認を行った。無酸素状態指示剤に青色の変色が確認された遺物は、脱酸素剤及び無酸素状態指示剤を交換した。

その他、腐食（鏽）の進行の要因となる付着物（土壌や鏽）を除去するクリーニング作業を行った。

（3）動植物遺存体

木質遺物と同様の判断基準に従い2件の劣化防止措置を行った。

劣化状態及び現有数の再確認作業を行い、その結果をもとに台帳整理を行った。

劣化防止措置実施状況

劣化防止数	
561 件	
内訳 木質遺物	441 件
金属質遺物	118 件
その他（動植物遺存体）	2 件

2. 保存処理業務

105点の保存処理を行った。このうち、白河館の施設・設備で処理を行うことが困難な12点（西木流C遺跡ほか出土木質遺物4点、駒板新田横穴墓群ほか出土金属質遺物8点）については専門業者に委託した。その他の93点（船ヶ森西遺跡ほか出土木質遺物50点、木村館跡ほか出土金属質遺物43点）については以下の手順により白河館内で保存処理を行った。

（1）木質遺物

木質遺物の保存処理は、その資料の樹種、状態、器種等によって処理方法を変える必要がある。そのため、ポリエチレングリコール含浸法と凍結真空乾燥法で処理可能な資料を選択した。

ポリエチレングリコール含浸法は、①事前調査②樹種同定③脱鉄④薬剤含浸⑤取り上げ・固化⑥表面処理⑦記録作成の工程で行った。

凍結真空乾燥法は、①事前調査②樹種同定③脱鉄④薬剤含浸⑤予備凍結・真空乾燥⑥表面処理⑦記録作成の工程で行った。

（2）金属質遺物

金属質遺物は全て青銅製であったため、①事前調査②クリーニング③安定化処理④記録作成の工程で保存処理を行った。

事前調査では遺物の現状確認のほか、X線透過撮影による構造等調査、蛍光X線分析による定性分析等を行った。

保存処理業務実施状況

保存処理数	
105件	
内訳 木質遺物	54件
金属質遺物	51件

3. 分類・データベース入力業務

データベースの入力及び分類業務は、報告書未掲載の鉄製品についての分類データベースを600件入力した。

9 その他

1. ボランティア活動の支援

（1）募集

令和6年度は、ボランティアの申し込み資格を原則として①令和6年4月1日現在で16歳以上、②無償で活動ができる方として募集した。

（2）登録

ボランティアの名称は『まほろんボランティア』とし、登録形態は「個人登録ボランティア」としている。令和6年度末時点のボランティア登録者数は37名である。

まほろんボランティア登録状況

令和6年度登録者数	37名
内訳	
1. 最年少	17歳
2. 最年長	86歳
(令和7年3月31日現在)	

（3）活動内容

展示業務への参加、各イベントの体験資材準備及び当日の運営補助、体験学習器材の製作等、野外展示施設の火焚き燻蒸等を行った。

特記として、大学生のボランティアと共同制作した白川城跡の立体模型を常設展示のコーナー展に展示し、制作作者による解説会を行った。

このほか、来館者案内のためのボランティア研修会を1回実施した。

（4）支援体制

白河館では学芸課にボランティア担当職員を配置し、活動内容の調整を行うとともに、活動

中の事故等を補償するボランティア保険の加入、ユニフォームの貸与、休憩場所の確保、各種研修の実施など、活動環境の整備を図っている。また、令和6年度は「まほろんボランティア連絡会」を4回開催し、ボランティア活動の意見交換を行った。



コーナー展示解説会

2. 実習生等の受け入れ

(1) 学芸員博物館実習

県内の大学生や、県内出身者で県外の大学に通う大学生を対象に、館内において博物館実習を行った。県内外の大学生4名を受け入れ、9月10日～15日の6日間に実施した。

実習内容は、文化庁から示された「博物館ガイドライン」を参考に、より実践的な経験を積むことを意識しながら、当館の役割や特色を生かした実体験や実技の場を提供した。

展示作業の実習として、学芸員が企画した常設展示のコーナー展の準備を分担して行い、実習の最終日には一般来館者向けに各自展示解説を行った。展示実習の成果は、常設展示コーナー



学芸員博物館実習

一展「令和6年度博物館実習生によるコーナー展 南相馬市谷地中遺跡」と題し、令和6年9月15日～令和7年3月25日まで展示した。

(2) 産業現場実習

高等学校の勤労体験学習の一環として実施されている実習として、令和6年6月6日～9日の4日間、福島県立白河実業高等学校より4名の生徒を受け入れた。学芸業務を中心に、野外展示の整備や体験学習の資材作成、資料保管業務に関する作業補助等を行った。

(3) 職場体験

中学校におけるキャリア教育の一環として実施されている職場体験として、白河市立白河中央中学校からの要望により令和6年9月11日、12日の両日、3名の生徒を受け入れた。野外展示の復元住居を燻蒸するための焚き木集めや一般収蔵庫の清掃などにあたった。

(4) インターン生の受け入れ

NPO法人ドットジェイピーが運営するインターンシッププログラムに参加する学生1名を夏休み期間中の8月6日～10日及び15日の6日間受け入れた。体験活動室での補助作業を中心に、復元住居の燻蒸当番、受け入れ図書の登録、体験学習材料の準備等にあたった。

3. 年報の発行

令和5年度の館の管理運営実績をまとめた『年報～令和5年度実績～』を作成し、市町村教育委員会や学校等の関係機関に配布した。

4. 運営協議会の開催

館長の諮問機関として、福島県文化財センター白河館運営協議会を組織し、会議を開催した。

なお、令和6年度の委員6名は次のとおり。

- ・日下部善己：元二本松市立岳下小学校長、再任
- ・柳沼 賢治：福島大学客員教授、再任
- ・根本 純子：白河市建設部文化財課長、再任
- ・小野 保：国立那須甲子青少年自然の家所長、再任
- ・渡辺 紀子：しらかわ市民活動支援理事、再任
- ・西牧 泰彦：西白河小中学校長連合協議会長、新任

(1) 第1回運営協議会

開催日：令和6年10月26日（土）

場 所：講堂

議 事

- ・令和5年度白河館の事業実績について
- ・令和6年度上期の白河館の運営状況について
- ・令和6年度下期の事業について
- ・その他

(2) 第2回運営協議会

開催日：令和7年3月8日（土）

場 所：講堂

議 事

- ・令和6年度白河館の運営状況について
- ・平成7年度白河館の事業計画について
- ・その他

5. 読み直すふくしまの歴史事業

開催日：令和7年2月22日（土）

場 所：福島県立図書館 講堂

受講者数：154名

当財団が行ってきた発掘調査成果や最新の研究成果を踏まえ、「新しいふくしまの歴史像」を広く県民に紹介するため、「読み直すふくしまの歴史講演会－考古学の最新の研究方法－」と題した講演会を開催した。講演会では、2本の講演と1本の報告を行った。

講演1では、金沢大学古代文明・文化資源学研究所の佐々木由香氏を講師に迎えた。「縄文・弥生土器圧痕からみた植物利用－福島県を中心に－」と題し、野生種から栽培種に至る経緯（大型化）等に触れながら、福島県を中心に明らかになってきた植物利用について講演した。

講演2では、福島大学人文社会学群行政政策学類の菊地芳朗氏を講師に迎えた。「まほろん収蔵庫は研究材料の宝庫－福島県内出土土器の圧痕調査－」と題し、古墳時代における植物利用や農耕等に関する研究成果を講演するとともに、白河館の収蔵庫や資料管理方法を紹介し、その役割の重要性について言及した。

報告では、白河館福田秀生が、令和2年度から福島県ハイテクプラザの協力を得て実施してきたX線CTを用いた収蔵資料の非破壊構造調査を通じ、特徴的な知見が得られた土偶4点の形態的特徴や制作方法について、成果を解説した。

6. 他機関との連携

自治体・教育普及機関・研究機関等と連携して、以下の事業を実施した。

(1) まほろん移動展の実施

1) 「U-15の考古学 古墳時代編」

内 容：令和4年度に実施した同名の企画展から、古墳時代のコーナーをダイジェスト的に再構成して展示した。

会 期：6月7日（金）～7月3日（水）

会 場：福島県立図書館

観覧者数：12,396名



まほろん移動展

(2) まほろん感謝デー

まほろん感謝デーの開催にあわせ、公益財団法人ふくしま海洋科学館との連携により移動水族館の展示を実施した。

また、国立那須甲子青少年自然の家、那須高原ビジターセンターと連携した体験学習を実施した。

1) 公益財団法人ふくしま海洋科学館

実施日：11月2日（土）・3日（日）

観覧者：1,136名（延べ）

2) 国立那須甲子青少年自然の家

実施日：11月3日（日）・4日（月・祝）

内 容：缶バッジづくり

参加者：400名

3) 那須高原ビジターセンター

実施日：11月3日（日）・4日（月・祝）

内 容：焼ペンコースターゼづくり

参加者：129名

(3) ふたば歴史教室

企画展「復興祈念展」の開催にあわせ、双葉郡内の小学校及び社会教育施設を対象に地域の文化財に関する出前教室を実施した。

1) 浪江町教育委員会「公民館フェスティバル」

実施日：9月11日（水）～12日（木）

会 場：浪江町まちづくり支援施設

内 容：

講義「遺跡で浪江を知ろう」参加者：15名

体験講座「土器づくり」 参加者：10名

P R ブース 観覧者：250名

2) 浪江町教育委員会 親子講座「浪江の遺跡を知ろう」

実施日：10月5日（土）

会 場：浪江町まちづくり支援施設

参加者：10名

3) 双葉町立双葉南・双葉北小学校

実施日：10月31日（木）

参加者：11名

4) 浪江町教育委員会「ふれあい交流センター フェス」

実施日：11月26日

会 場：大堀防災コミュニティーグランド

内 容：土器野焼き

参加者：10名

（4）館外イベントへの出展

生涯学習施設や地元機関が主催する行事において、展示や体験学習を実施した。

1) あつまれっハイテクプラザ2024

実施日：8月4日（日）

会 場：福島県ハイテクプラザ

内 容：収蔵資料及びX線CT画像の展示、象嵌風キーholdeづくり体験

参加者：193名

2) 日光国立公園なすビジ秋まつり2024

実施日：10月26日（土）・27日（日）

会 場：那須高原ビジターセンター

内 容：収蔵資料の展示、縄文コースタづくり体験

参加者：163名

3) にほんまつ城報館冬季自主イベント

実施日：2月1日（土）・2日（日）

会 場：にほんまつ城報館

内 容：勾玉づくり体験

参加者：88名

（5）アクアマリンふくしま教員セミナー

公益財団法人ふくしま海洋科学館主催の教員セミナーにおいて、講義「古代人の生活について深く知ろう」、演習「古代人の生活を体験しよう 鹿角製釣針で魚釣り」の講師を務めた。

実施日：8月8日（木）・9日（金）

会 場：アクアマリンふくしま

参加者：40名



アクアマリンふくしま教員セミナー

（6）その他

1) 「文化財に係る災害時の応援活動支援に関する協定」に基づき、災害発生時の情報提供や技術支援などを行った。また「ふくしま歴史資料保存ネットワーク」等の活動を支援した。

2) 日本博物館協会のWebサイトと月刊誌『博物館研究』に白河館に関する情報を提供した。

また、福島県博物館連絡協議会の理事館として、県内博物館等との連携強化に努めた。

3) 福島県観光物産交流協会や白河市観光物産協会に白河館に関する情報提供を行い、観光客等の誘致を図った。

また、ふくしまグリーン復興推進協議会主催の自然環境学びめぐりスタンプラリーにデジタルスタンプスポットとして参加した。

4) 常設展示企画「白河結城氏の居城・白川城の全貌を見る」及びまほろんボランティアによる展示解説会の開催について、コミュニティカフェ E M A N O N のSNSグループを通じて、高校生を対象に広報を実施した。

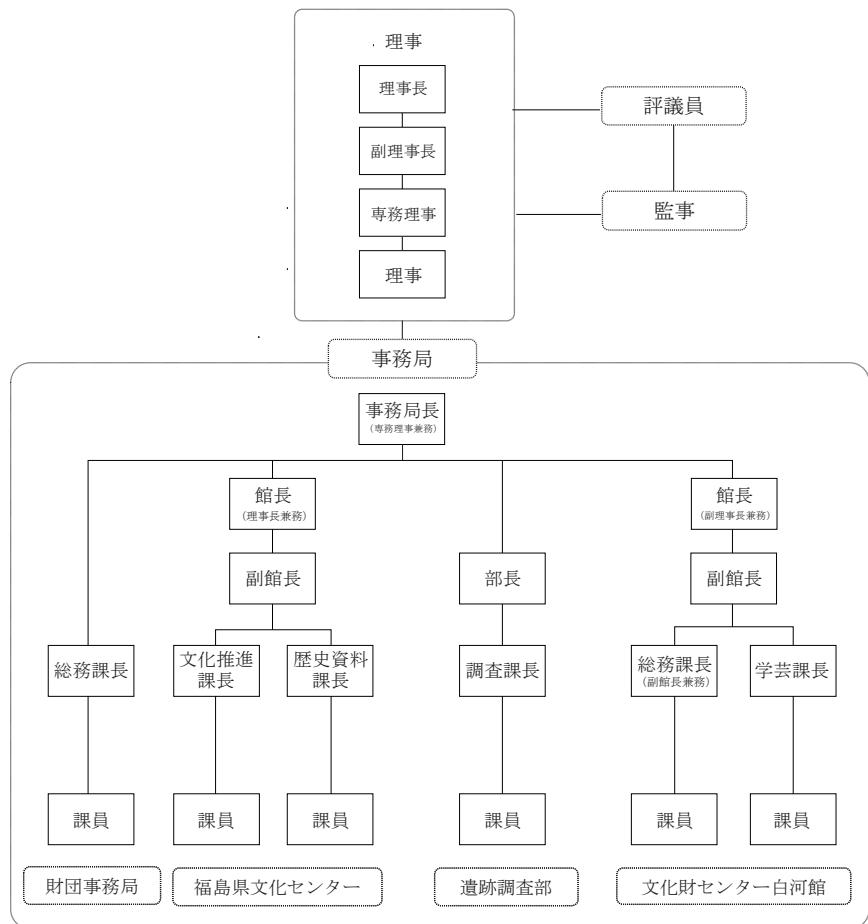
7.被災ミュージアム再興事業

福島県教育委員会からの委託事業として、被災ミュージアム再興事業を実施した。

福島第一原子力発電所事故による避難指示区域内にあたる大熊町と双葉町の資料館等から白河館仮保管施設に移送された文化財について、資料の修理安定化、データベース入力、応急的劣化防止作業などを実施した。

第3章 令和6年度の組織と管理運営費

1 組 織



職員名簿

職名	氏名	職名	氏名
館長	石川日出志	学芸員	勝川若奈
副館長	鈴木秀明	学芸員	河西久子
総務課	課長(兼務)	学芸員	佐藤璃子
	副主幹	学芸員	茂木琢馬
	副主査	学芸員	菅原祥夫
	補助職員	学芸員	能登谷宣康
	補助職員	学芸員	青木愛子
	補助職員	学芸員	進藤丈嗣
学芸課	課長	学芸員	松林玲美
	企画調整担当課長	学芸員	嶋村一志
	主幹	補助職員	根本裕子
	主幹	補助職員	近藤祐二
	専門学芸員	補助職員	山内七海
	専門学芸員	補助職員	郷眞智子
	主任学芸員	補助職員	片野美利

2 白河館管理運営費

・指定管理者委託料 290,200千円

第4章 白河館施設の概要

施設名：福島県文化財センター白河館

(愛称：まほろん)

所在地：〒961-0835

福島県白河市白坂字一里段86番地

設置者：福島県

開館：平成13年7月15日

管理者：公益財団法人福島県文化振興財団

◎建築概要

1. 敷地面積：51,827.51m²
2. 建築面積：本館・収蔵庫棟 5,866.328m²
　　体験学習館 133.627m²
3. 延床面積：本館・収蔵庫棟 5,399.815m²
(本館2,400.046m²、収蔵庫棟 2,999.769m²)
　　体験学習館 92.71m²

4. 構造

- ①本館棟 鉄筋コンクリート造
- ②収蔵庫棟 鉄骨造
- ③体験学習館 木造

5. 駐車台数等

- ①一般駐車場 85台
(うちおもいやり駐車場4台・子育て応援駐車場3台)
- ②大型車駐車場 10台
- ③職員駐車場 21台
- ④駐輪場 28台

6. 地域地区：都市計画区域内、無指定

◎設備概要

1. 電気設備：

- ・受電方式／高圧6.6KV 1回線受電、変圧器容量／400KVA、予備電源／非常発電50KVA
- ・非常照明設備：建築基準法に基づいて設置
- ・放送設備：非常放送と兼用、出力240W
- ・電気時計設備、テレビ共同視聴設備、インターホン設備
- ・電話設備：電子交換機、外線4回線
- ・監視設備：分散型総合管理システムにより、受電設備・防災設備・空調設備を遠隔発停制御及び計測監視

2. 空調設備

・空調方式

一般系統／ガスエンジン空冷HPマルチパッケージ方式（一部空冷HP）+静止型全熱交換器、特別収蔵庫系統／單一ダクト（空冷冷専パッケージ+電気ヒーター+アルカリ除去フィルターユニット）方式、常設展示室・特別展示室／單一ダクト（ガスエンジンHPP）方式

・熱源：簡易ガス（ガス種別：プロパン）

3. 衛生設備

- ・給排水設備：給水／水道直結方式、給湯／局所式、排水／汚水・雑排水：屋内分流・屋外合流（最終柵でポンプアップ）方式で下水道本管へ放流
- ・雨水：側溝放流
- ・多目的便所：屋内1箇所（男女別）、屋外1箇所（男女別）、トイレ呼出設備付

◎建築工事工期

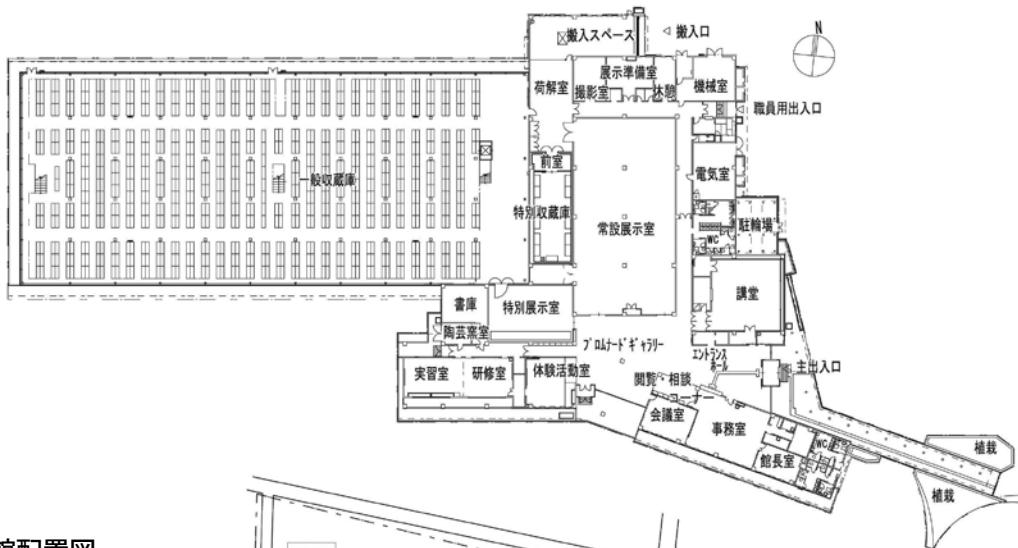
・着工：平成11年7月12日

・完成：平成12年10月16日

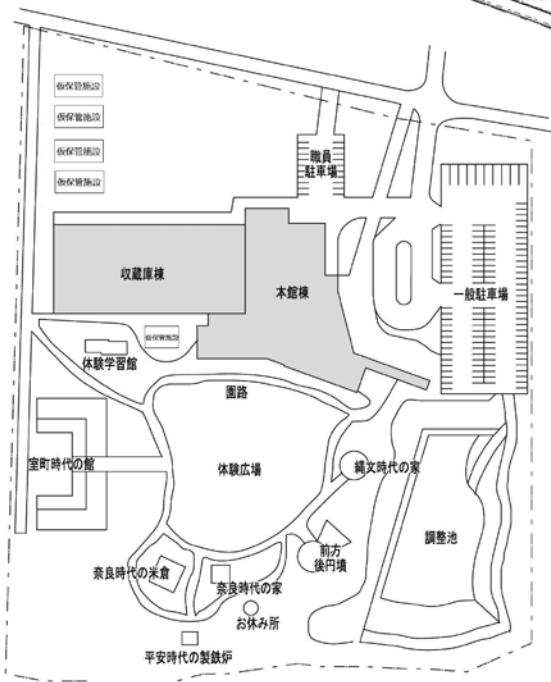
◎総建設費 3,300,625千円

・内訳 建築費	2,690,848千円
公有財産購入費	222,095千円
その他の経費	387,682千円

白河館平面図



白河館配置図

主要諸室面積表 (m²)

室名	面積	備考
常設展示室	510	
特別展示室	126	
講堂	143	
研修室	51	
実習室	61	
体験活動室	64	
陶芸窯室	16	
閲覧・相談コーナー	25	
エントランスホール・プロムナードギャラリー	390	
事務室	104	
会議室	47	
館長室	36	
印刷室	16	
救護室	9	

室名	面積	備考
書庫	53	
搬入スペース	115	
荷解室	103	
特別収蔵庫	104	
特別収蔵庫前室	21	
一般収蔵庫	2,761	積層棚 2層目部分 2,263m ²
警備員室	22	
休憩室	25	
展示準備室	43	
撮影室	39	
その他	516	
合計	5,400	
体験学習館	93	
仮保管施設	889	5棟 (194m ² × 4棟 + 113m ²)

第5章 白河館の条例・規則

1 福島県文化財センター白河館条例

(平成13年3月27日 福島県条例第43号)

(設置)

第一条 地方自治法（昭和二十二年法律第六十七号）第二百四十四条第一項の規定に基づき、文化財等を保管し、又は活用することにより、県民の文化の振興に資するため、福島県文化財センター白河館（以下「白河館」という。）を設置する。

(位置)

第二条 白河館は、白河市白坂字一里段八十六番地に置く。

（平一八条例五一・一部改正）

(業務)

第三条 白河館において行う業務は、次のとおりとする。

- 一 考古資料の保管及び展示、考古資料以外の文化財の展示並びに文化財に関する資料の保管及び展示に関すること。
- 二 文化財に関する講演会、講習会等の開催に関すること。
- 三 文化財等を活用した体験学習の実施に関すること。
- 四 文化財に関する情報の収集及び提供に関すること。
- 五 文化財に関する調査、研究を担当する市町村等の職員の研修に関すること。
- 六 考古資料の保管及び文化財の活用に関する専門的又は技術的な調査研究に関すること。
- 七 前各号に掲げるもののほか、その設置の目的を達成するために必要な業務に関すること。

（指定管理者による管理）

第四条 白河館の管理は、福島県公の施設の指定管理者の指定の手続等に関する条例（平成十六年福島県条例第六十八号）の定めるところにより教育委員会が指定した法人その他の団体（以下「指定管理者」という。）に行わせるものとする。

（平一七条例一〇七・追加）

（指定管理者が行う業務の範囲等）

第五条 指定管理者が行う業務は、次のとおりとする。

- 一 第三条各号に掲げる業務に関すること。
- 二 白河館の維持管理に関すること。
- 三 前二号に掲げるもののほか、教育委員会が別に定める業務に関すること。
- 2 指定管理者は、業務の遂行に当たっては、県民の平等な利用を確保しなければならない。
- 3 指定管理者は、業務の遂行上知り得た個人情報（個人に関する情報であって、特定の個人が識別され、又は識別され得るものをいう。）その他の情報を適切に取り扱わなければならない。

（平一七条例一〇七・追加）

（遵守事項）

第六条 白河館を利用する者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

- 一 白河館の施設、附属設備、展示品等をき損し、又は汚損しないこと。
- 二 物品を販売し、又は頒布しないこと（教育委員会の許可を受けた場合を除く。）。
- 三 館内において、展示品の模写、模造、撮影等を行わないこと（教育委員会の許可を受けた場合を除く。）。

四 所定の場所以外の場所において、喫煙又は飲食を行わないこと。

五 他の利用者に危害又は迷惑を及ぼす行為をしないこと。

六 前各号に掲げるもののほか、管理上教育委員会が指示する事項

（平一七条例一〇七・旧第四条縁下）

（入館の規制等）

第七条 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当する者に対し、入館を拒否し、又は退館若しくは退去を命ずることができる。

一 前条の規定に違反した者

二 白河館の施設、附属設備、展示品等をき損し、又は汚損するおそれのある者

三 館内の秩序を乱し、又はそのおそれのある者

（平一七条例一〇七・旧第五条縁下・一部改正）

（使用料の不徴収）

第八条 白河館の使用料は、徴収しない。

（平一七条例一〇七・旧第六条縁下）

（委任）

第九条 この条例に定めるもののほか、白河館の管理その他この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

（平一七条例一〇七・旧第八条縁下）

附 則

この条例は、教育委員会規則で定める日から施行する。

（平成一三年教委規則第一六号で平成一三年七月一五日から施行）

附 則（平成一七年条例一〇七号）

1 この条例は、平成一八年四月一日から施行する。

2 改正後の福島県文化財センター白河館条例第四条の規定による指定管理者の指定の手続は、この条例の施行の日前においても行うことができる。

附 則（平成一八年条例第五一号）

この条例は、公布の日から施行する。

2 福島県文化財センター白河館条例施行規則

(平成13年3月27日 福島県教育委員会規則第3号)

（休館日）

第一条 福島県文化財センター白河館（以下「白河館」という。）の定期の休館日は、次のとおりとする。

- 一 月曜日。ただし、その日が国民の祝日に関する法律（昭和二十三年法律第百七十八号）第三条に規定する休日（以下「休日」という。）に当たるときを除く。
- 二 休日の翌日。ただし、その日が土曜日、日曜日又は休日に当たるときを除く。

三 一月一日から同月四日まで及び十二月二十八日から同月三十一日まで

2 指定管理者（福島県文化財センター白河館条例（平成十三年福島県条例第四十三号）第四条に規定する指定管理者をいう。以下同じ。）は、必要があると認めるときは、あらかじめ福島県教育委員会教育長（以下「教育長」という。）の承認を得て、臨時に休館し、又は臨時に開館することができる。

（平一七教委規則一六・一部改正）

(開館時間)

第二条 白河館の開館時間は、午前九時三十分から午後五時までとする。ただし、指定管理者は、必要があると認めるときは、あらかじめ教育長の承認を得て、これを臨時に変更することができる。

(平一七教委規則一六・一部改正)

(文化財等の特別利用)

第三条 白河館が保管している文化財等を学術上の研究その他の目的のため特に利用しようとする者は、教育長の承認を受けなければならない。

(委 任)

第四条 この規則に定めるものほか、白河館の管理その他この規則の施行に関し必要な事項は、教育長が定める。

附 則

この規則は、福島県文化財センター白河館条例（平成十三年福島県条例第四十三号）の施行の日から施行する。

(施行の日 = 平成一三年七月一五日)

附 則 (平成一七年教委規則第一六号)

この規則は、平成十八年四月一日から施行する

白河館の利用案内

開館時間 ①午前9時30分～午後5時（入館
は午後4時30分まで）

休館日 ②毎週月曜日（国民の祝日・振替休
日の場合はその翌日）

③国民の祝日の翌日（ただし土・日
にあたる場合は開館）

④年末年始（12月28日～1月4日）

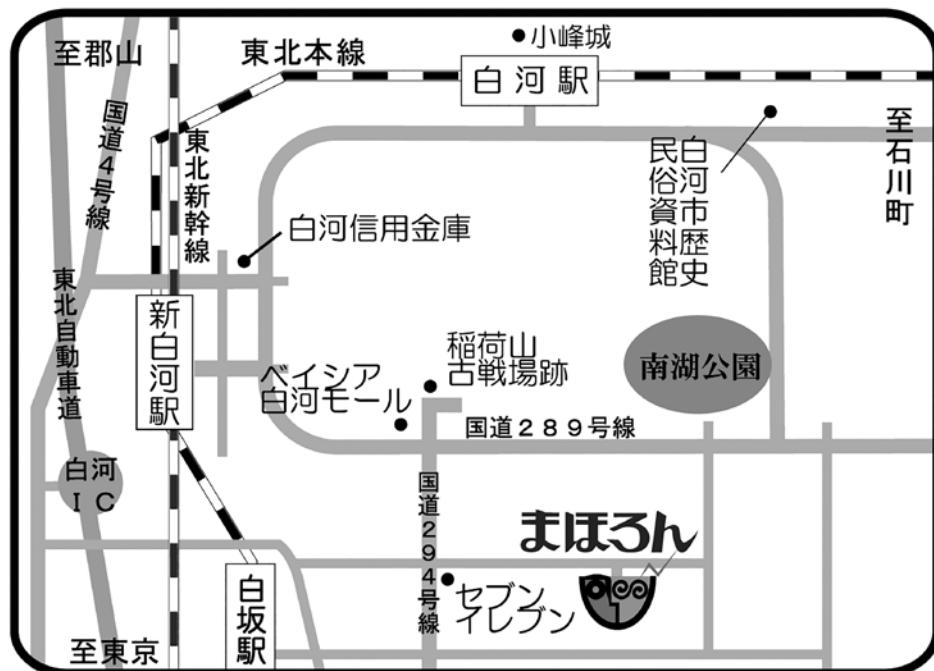
入館料 ⑤無料

交通案内 ⑥JR東北本線白河駅、JR東北新
幹線新白河駅から白河市循環バス
または、福島交通バス（白坂・白
坂駅行き）まほろんバス停下車

⑦JR東北本線白河駅、JR東北新
幹線新白河駅からJRバス（棚倉
行き）南湖公園バス停下車徒歩25
分

⑧東北自動車道白河ICから車で20
分

その他 ⑨屋内、屋外に多目的トイレを備え
ています。車いす、ベビーカーも
用意しています。



福島県文化財センター白河館 年報～令和6年度実績～

令和7年10月3日発行

編集・発行 公益財団法人福島県文化振興財団
福島県文化財センター白河館
〒961-0835 福島県白河市白坂一里段86番地
TEL 0248-21-0700 FAX 0248-21-1075
<https://www.fcp.or.jp/mahoron/>
